



Docket No.: 20050/0200476-US0
(PATENT)

In re Patent Application of:
Satoshi Mizutani et al.

Application No.: 10/705,404

Confirmation No.: 4407

Filed: November 10, 2003

Art Unit: 3761

For: INTERLABIAL PAD AND PACKAGE
THEREOF

Examiner: K. M. Reichle

Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

Dear Sir:

On November 10, 2003, Applicants filed the Affirmation of Claim for Priority for the above-referenced patent application, claiming priority under 35 U.S.C. 119 based on the following prior foreign applications filed in the following foreign country on the dates indicated:


Country	Application No.	Date
Japan	2001-152403	May 22, 2001
Japan	2001-319915	October 17, 2001

In support of the claim filed on November 10, 2003, Applicants submit certified copies of each said original foreign application herewith.

Dated: June 9, 2006

Respectfully submitted,

By

 *for Thomas J. Bean*
(53,970)

Thomas J. Bean

Registration No.: 44,528

DARBY & DARBY P.C.

P.O. Box 5257

New York, New York 10150-5257

(212) 527-7700

(212) 527-7701 (Fax)

Attorneys/Agents For Applicant

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
る事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2 0 0 1 年 1 0 月 1 7 日

出 願 番 号
Application Number: 特 願 2 0 0 1 - 3 1 9 9 1 5

パリ条約による外国への出願
に用いる優先権の主張の基礎
となる出願の国コードと出願
番号
country code and number
of our priority application,
which is used for filing abroad
under the Paris Convention, is

J P 2 0 0 1 - 3 1 9 9 1 5

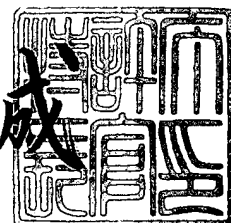
願 人
Applicant(s): ユニ・チャーム株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2 0 0 6 年 3 月 1 0 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

中 嶋 誠



【書類名】 特許願

【整理番号】 YC1-037

【提出日】 平成13年10月17日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A61F 13/15

【発明者】

 【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀 1 5 3 1 - 7 ユニ・
 チャーム株式会社テクニカルセンター内

 【氏名】 水谷 聡

【発明者】

 【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀 1 5 3 1 - 7 ユニ・
 チャーム株式会社テクニカルセンター内

 【氏名】 八巻 孝一

【発明者】

 【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀 1 5 3 1 - 7 ユニ・
 チャーム株式会社テクニカルセンター内

 【氏名】 野田 祐樹

【発明者】

 【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀 1 5 3 1 - 7 ユニ・
 チャーム株式会社テクニカルセンター内

 【氏名】 徳本 恵

【発明者】

 【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀 1 5 3 1 - 7 ユニ・
 チャーム株式会社テクニカルセンター内

 【氏名】 酒井 あかね

【特許出願人】

 【識別番号】 000115108

 【氏名又は名称】 ユニ・チャーム株式会社

【代理人】**【識別番号】** 100106002**【弁理士】****【氏名又は名称】** 正林 真之**【選任した代理人】****【識別番号】** 100115303**【弁理士】****【氏名又は名称】** 岩永 和久**【選任した代理人】****【識別番号】** 100116872**【弁理士】****【氏名又は名称】** 藤田 和子**【先の出願に基づく優先権主張】****【出願番号】** 特願2001-152403**【出願日】** 平成13年 5月22日**【手数料の表示】****【予納台帳番号】** 058975**【納付金額】** 21,000円**【提出物件の目録】****【物件名】** 明細書 1**【物件名】** 要約書 1**【物件名】** 図面 1**【物件名】** 委任状 1**【援用の表示】** 平成13年9月4日付けの特願2001-238511
の手續補正書に添付のものを援用する。**【プルーフの要否】** 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 陰唇間パッド及びその包装体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 身体側に面する透水性の被覆シートと衣服側に面する不透水性のサポートシートとが経血を吸収する吸収体を内包させた形態で接合されて成るものであり、陰唇に係着させて用いる陰唇間パッドであって、

当該陰唇間パッド取り外し用に当該陰唇間パッドから突出しているプルアップ体を備えたものであることを特徴とする陰唇間パッド。

【請求項 2】 前記プルアップ体が前記陰唇間パッドから突出している状態は、前記陰唇間パッドの前端部からの突出、若しくは、前記陰唇間パッドの側縁部からの突出であることを特徴とする請求項 1 記載の陰唇間パッド。

【請求項 3】 前記被覆シートの衣服側表面と前記サポートシートの身体側表面とが前記陰唇間パッドの周縁部で接合されることによって周縁接合部が形成されている陰唇間パッドであって、

前記周縁接合部の一部が、前記プルアップ体とされている請求項 1 又は 2 に記載の陰唇間パッド。

【請求項 4】 前記陰唇間パッドの周縁部において、前記被覆シートの衣服側表面と前記サポートシートの身体側表面とが貼着されることによって周縁接合部が形成されている陰唇間パッドであって、

前記周縁接合部から前記被覆シートが突出しており、当該突出した被覆シートが前記プルアップ体とされている請求項 1 又は 2 に記載の陰唇間パッド。

【請求項 5】 前記陰唇間パッドの周縁部において、前記被覆シートの衣服側表面と前記サポートシートの身体側表面とが貼着されることによって周縁接合部が形成されている陰唇間パッドであって、

前記周縁接合部から前記サポートシートが突出しており、当該突出したサポートシートが前記プルアップ体とされている請求項 1 又は 2 に記載の陰唇間パッド。

【請求項 6】 前記プルアップ体の一部に不連続部が形成されている請求項 1 から 5 のいずれか一項に記載の陰唇間パッド。

【請求項 7】 前記不連続部が、前記プルアップ体に形成された開口部又は切り込み部である請求項 6 に記載の陰唇間パッド。

【請求項 8】 前記プルアップ体に形成された開口部又は切り込み部が、角を有しない形状である請求項 7 に記載の陰唇間パッド。

【請求項 9】 前記プルアップ体と前記周縁接合部との境界近傍に、液体の滲出を抑制するための圧縮域が形成されている請求項 1 から 8 のいずれか一項に記載の陰唇間パッド。

【請求項 1 0】 前記サポートシートの衣服側に、当該サポートシートの長手方向の各側部において一箇所以上の接合部分と、当該サポートシートの短手方向において一箇所以上の非接合部分と、をもって接合されたミニシート片を備え、前記一箇所以上の非接合部分の少なくとも一つが、前記ミニシート片と前記サポートシートとの間において、前記サポートシートの面方向に指幅の開口が直接的に確保される指挿入用口を形成するものである請求項 1 から 9 のいずれか一項に記載の陰唇間パッド。

【請求項 1 1】 前記ミニシート片の一部がプルアップ体とされている請求項 1 0 に記載の陰唇間パッド。

【請求項 1 2】 生理用ナプキンと併用される生理用ナプキン併用用陰唇間パッドである請求項 1 から 1 1 のいずれか一項に記載の陰唇間パッド。

【請求項 1 3】 請求項 1 から 1 2 のいずれか一項に記載の陰唇間パッドが個別包装用の包装容器に内包されている包装体。

【請求項 1 4】 請求項 9 から 1 2 のいずれか一項に記載の陰唇間パッドが、開封口を有する個別包装用の包装容器に内包されている包装体であって、前記陰唇間パッドが、前記指挿入用口が前記開封口に向かって開口するように、前記包装容器に内包されている包装体。

【請求項 1 5】 前記陰唇間パッドが、前記ミニシート片が前記陰唇間パッドの長手方向の略中心線に沿って衣服側方向に向かって山折り状となるように、前記包装容器に内包されている請求項 1 4 に記載の包装体。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、女性の陰唇に係着させて用いる、特に、生理用ナプキンと併用され得る陰唇間パッド、並びに、当該陰唇間パッドが個別包装用の包装容器に内包されている包装体に関する。

【0 0 0 2】**【従来の技術】**

従来より、女性用生理用品としては、生理用のナプキンやタンポンが一般的に用いられている。しかしながら、ナプキンについては、衣服に当接させて用いるものであり、膣口付近への密着性が乏しいために身体との隙間から経血のモレが生じ易く、一方、タンポンは、その物品の属性に起因して、装着時の異物感や不快感を生じ易く、膣内への装着が困難であるという問題があった。

【0 0 0 3】

このような状況下、ナプキンとタンポンの中間に位置する生理用品として、近年、陰唇間パッドなる生理用品が注目されるようになってきている。

【0 0 0 4】

この陰唇間パッドは、女性の陰唇間にその一部分を挟み込ませ、陰唇に当接させて装着するというものであり、生理用ナプキンに比して小型であるため装着感に優れ、快適であることの他、経血で身体を汚す範囲が狭いため衛生的で清潔であるという利点がある。また、生理用ナプキンよりも身体との密着性が高いためモレが生じ難く、膣内に挿入するタンポンと比較して装着時の心理的抵抗も少ないという特徴を有している。

【0 0 0 5】

ところで、陰唇間パッドと同様に陰唇に係着して用いる製品として、女性の尿失禁を防止するための尿失禁防止器具がある。この尿失禁防止器具においては、着用者が使用後の器具を陰唇間から取り外すことを容易とするために、例えば、図 2 に示すように、尿道を閉鎖する弾性本体 2 6 から成り、器具の衣服側（陰唇非接触面側）にリング 2 8 等の突起物を備えた尿失禁防止器具 2 4 が開示されている（特表平 6 - 5 0 6 3 6 8 号公報）。

【0 0 0 6】

上記尿失禁防止器具は、着用者が使用後の器具を陰唇間から取り外す際に、器具の衣服側に取り付けられた突起物を摘むことによってその取り外し操作を容易に行うことができるように工夫がなされているものであるが、以下に掲げるよう問題点を有していた。

【0007】

第1には、図2に示すように、突起物（リング28）が、器具の衣服側の中央部近傍に取り付けられたものであるため、器具の装着状態においては、着用者が突起物の視認が困難な状態にある点が問題であった。即ち、器具の取り外しの際に、その視認困難な突起物を探り当てるために、着用者は前屈みの窮屈な姿勢を強いられることとなるという問題点があった。

【0008】

第2には、着用者が突起物の視認が困難となることに起因して、着用者は突起物を手探りで探し当てなければならない点が問題であった。即ち、尿や体液の付着している陰唇と指とを接触させなければ器具を取り出すことができないため、手洗いが必要で面倒であり、心理的にも不衛生な感じを与えるという問題点があった。

【0009】

第3には、器具の衣服側に裏面側に突起物としてリング等を取り付けるとすると、その形状に起因して器具を貫通するように取り付けなければならないという点が問題であった。即ち、器具の裏面側は、吸収した尿や体液が衣服側に滲み出すことを防止するために不透水性材料によって構成することが一般的であるが、リング等の取り付けにより当該不透水性材料に穴を開けることになり、液モレを生じてしまうという問題点があった。このような器具では、着用者の肌を広く汚すことのない清潔性と、下着への汚れ付着が低減される安心感という、基本的な両性能を担保することができない。

【0010】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、以上のような課題に鑑みてなされたものであり、その目的は、着用者の肌を広く汚すことのない清潔性と、下着への汚れ付着が低減される安心感と

いう、基本的な性能を担保するのは勿論のこと、陰唇間から迅速かつ簡便に、しかも衛生的に取り外すことが可能な陰唇間パッドを提供することにある。

【0 0 1 1】

【課題を解決するための手段】

上記のような課題を解決するために、本発明においては、陰唇間パッドを陰唇に係着させた状態において、陰唇間パッドから外側に向かって突出するプルアップ体を備えたものとすることによって、着用者の肌を広く汚すことのない清潔性と、下着への汚れの付着が低減される安心感という、基本的な性能を担保するのは勿論のこと、陰唇間から迅速かつ簡便に、しかも衛生的に取り外すことを可能とするものである。

【0 0 1 2】

より具体的には、本発明は以下のようなものを提供する。

【0 0 1 3】

(1) 身体側に面する透水性の被覆シートと衣服側に面する不透水性のサポートシートとが経血を吸収する吸収体を内包させた形態で接合されて成るものであり、陰唇に係着させて用いる陰唇間パッドであって、当該陰唇間パッド取り外し用に当該陰唇間パッドから突出しているプルアップ体を備えたものであることを特徴とする陰唇間パッド。

【0 0 1 4】

本発明の陰唇間パッドには、陰唇間パッドから突出するようにプルアップ体が設けられているため、当該陰唇間パッドを陰唇に係着した状態において、プルアップ体が陰唇の外へと露出することとなる。しかも、このプルアップ体は、指で摘むのに十分な大きさを有していることから、着用者は、かかるプルアップ体を摘んで引っ張ることにより、陰唇間パッドを容易に陰唇間から取り出すことが可能となっている。

【0 0 1 5】

そして、陰唇の外にプルアップ体が露出しているために、着用者はプルアップ体を極めて容易に視認することができ、プルアップ体を手探りで探し当てなければならないということがなくなる。このため、陰唇間パッドを取り外す際に、経

血や体液の付着している陰唇と指とが接触してしまうという事態が防止される。従って、陰唇間パッドを取り外した後に手洗いは不要であり、心理的にも不衛生な感じを与えない。

【0016】

更には、プルアップ体は、従前のリング等とは異なり、陰唇間パッドを貫通させなくとも（穴を開けなくても）取り付けることが可能であるため、液モレを生じてしまう事態も回避することができる。従って、着用者の肌を広く汚すことのない清潔性と、下着への汚れ付着が低減される安心感という、基本的な性能を担保することが可能となる。

【0017】

(2) 前記プルアップ体が前記陰唇間パッドから突出している状態は、前記陰唇間パッドの前端部からの突出、若しくは、前記陰唇間パッドの側縁部からの突出であることを特徴とする(1)記載の陰唇間パッド。

【0018】

本発明の陰唇間パッドによれば、プルアップ体は、陰唇間パッドの前端部（装着時において着用者の膣核近傍に位置する部分）から、若しくは、側縁部（装着時において着用者の大腿部近傍に位置する部分）から、突出するように設けられている。このため、装着時においては、かかるプルアップ体は、着用者の陰唇から着用者の身体前方に向かって、あるいは、着用者の陰唇からその垂直方向に位置する衣服側に向かって、露出することとなる。

【0019】

本発明の陰唇間パッドは、例えば、図3及び図4に示すように、透水性の被覆シート41と不透水性のサポートシート42とが経血を吸収する吸収体を内包させた形態で接合されて成るものである。着用時には被覆シート41を身体側に対向させ、サポートシート42を衣服側に対向させるようにして用いられる。そして、図示の例では、サポートシート42にプルアップ体48が貼着されている。このプルアップ体48は、陰唇間パッド44の長手方向の縁端（身体前方側に近い方の縁端）において、当該縁端の先端から更に身体前方側に向かって突出するように形成されている。

【0020】

このような図3及び図4に示す陰唇間パッド44は、長手方向の略中心線46aに沿って折曲し（図5参照）、陰唇に挟み込むことによって陰唇に係着させる。この陰唇に係着した状態において、プルアップ体48は陰唇から身体前方側に向かって突出しているため、着用者がプルアップ体48を極めて容易に視認することができる。従って、陰唇間パッド44の取り外しの際に、プルアップ体48を探り当ててのために、着用者が前屈みの窮屈な姿勢を強いられるというようなことが防止される。

【0021】

本発明におけるプルアップ体は、上述の図3及び図4に示すような、陰唇間パッド44の長手方向の縁端（身体前方側に近い方の縁端）において、当該縁端の先端から更に身体前方側に向かって突出しているものに限られず、例えば、図6や図29に示すように、陰唇間パッド44の側縁部から更に側方に向かって突出している部材であってもよい。

【0022】

このような陰唇間パッド44は、陰唇に係着させる際には、図7や図30に示すように、長手方向の略中心線46aに沿って折曲した状態で陰唇間に挟み込まれる。そして、プルアップ体48は、陰唇間パッド44の陰唇への装着状態に応じ、身体前方側に向かって露出したり、衣服方向側に向かって垂直に露出したりすることとなる。

【0023】

陰唇間パッドを陰唇から取り外し、便器に廃棄するときにおいて、サポートシート側（衣服接触面）を下側に向けて廃棄すると、サポートシートが不透水性であるが故に陰唇間パッドが水面上に浮かんでしまい、なかなか流すことができない場合がある。この点、図30に示すように、プルアップ体48が陰唇間パッド44の側縁部から更に側方に向かって突出している構造の場合には、図31に示すように、プルアップ体48を手58で引っ張って陰唇間パッド44を陰唇57から取り外した後、手を返すようにして陰唇間パッド44を下側に向けると、自然に陰唇間パッド44の被覆シート側（陰唇内壁接触面）も下側に向くように仕

向けられることになる。この状態で陰唇間パッド44を廃棄すれば、陰唇間パッド44が前記被覆シート側から水を吸収して自重で沈降するため、陰唇間パッド44が水面上に浮かぶことはなく、速やかに流すことが可能となるという利点がある。

【0024】

図6や図29に示すような構造においては、プルアップ体48の長さ（突出方向の寸法）は、着用者が容易に掴むことができる長さとするべく、少なくとも10mm以上とすることが好ましく、10～60mmの範囲とすることが更に好ましい。一方、プルアップ体48の幅（突出方向と直交する方向の寸法）は、少なくとも5mm以上とすることが好ましく、10～20mmの範囲とすることが更に好ましい。

【0025】

本発明の陰唇間パッドにおけるプルアップ体は、陰唇間パッドを陰唇に係着させた状態で陰唇外部へ露出するものであればよく、図3及び図4、図6や図29に示すようなシート状のもののほか、例えば、タンポンの取り出し紐の如きものであってもよい。具体的には、複数のフィラメントを束ねた後に、撚りをかけることにより得られる500～5000 d t e xの範囲に調整された撚糸を用いることができ、これを陰唇間パッドが陰唇に係着されたときに陰唇外部へ露出するように付設すればよい。

【0026】

(3) 前記被覆シートの衣服側表面と前記サポートシートの身体側表面とが前記陰唇間パッドの周縁部で接合されることによって周縁接合部が形成されている陰唇間パッドであって、前記周縁接合部の一部が、前記プルアップ体とされている上記(1)又は(2)に記載の陰唇間パッド。

【0027】

本発明の陰唇間パッドにおいては、例えば、図3及び図4に示すように、プルアップ体48を別途付設するものであってもよいが、陰唇間パッドの一部を延出させることによってプルアップ体を形成してもよい。例えば、図8及び図9に示すように、被覆シート41の衣服側表面とサポートシート42の身体側表面とが

陰唇間パッド 4 4 の周縁部で接合されることによって周縁接合部 4 5 が形成されている場合においては、周縁接合部 4 5 の一部が、陰唇間パッド 4 4 の身体前方側の縁端から身体前方側に向かって突出するプルアップ体 4 8 とされているものであってもよい。このような態様は、別途プルアップ体を付設する態様と比較して、より簡便にプルアップ体を形成することができるという利点がある。

【 0 0 2 8 】

(4) 前記陰唇間パッドの周縁部において、前記被覆シートの衣服側表面と前記サポートシートの身体側表面とが貼着されることによって周縁接合部が形成されている陰唇間パッドであって、前記周縁接合部から前記被覆シートが突出しており、当該突出した被覆シートが前記プルアップ体とされている上記 (1) 又は (2) に記載の陰唇間パッド。

【 0 0 2 9 】

上記 (3) に記載の陰唇間パッドと同様の構成において、周縁接合部全体を突出させるのではなく、被覆シートのみを突出させてプルアップ体としてもよい。例えば、図 1 0 に示すように、周縁接合部 4 5 から被覆シート 4 1 が突出しており、当該突出した被覆シート 4 1 が陰唇間パッド 4 4 の身体前方側の縁端から身体前方側に向かって突出するプルアップ体 4 8 とされているものであってもよい。このような態様も、別途プルアップ体を付設する態様と比較して、より簡便にプルアップ体を形成することができるという利点がある。

【 0 0 3 0 】

(5) 前記陰唇間パッドの周縁部において、前記被覆シートの衣服側表面と前記サポートシートの身体側表面とが貼着されることによって周縁接合部が形成されている陰唇間パッドであって、前記周縁接合部から前記サポートシートが突出しており、当該突出したサポートシートが前記プルアップ体とされている上記 (1) 又は (2) に記載の陰唇間パッド。

【 0 0 3 1 】

上記 (3) に記載の陰唇間パッドと同様の構成において、周縁接合部全体を突出させるのではなく、サポートシートのみを突出させてプルアップ体としてもよい。例えば、図 1 1 に示すように、周縁接合部 4 5 からサポートシート 4 2 が突

出しており、当該突出したサポートシート 4 2 が陰唇間パッド 4 4 の身体前方側の縁端から身体前方側に向かって突出するプルアップ体 4 8 とされているものであってもよい。このような態様も、上記（３）及び（４）に記載の陰唇間パッドと同様の効果を得ることができる。

【 0 0 3 2 】

（６） 前記プルアップ体の一部に不連続部が形成されている上記（１）～（５）のいずれかに記載の陰唇間パッド。

【 0 0 3 3 】

本発明の陰唇間パッドは、例えば、図 1 2 に示すように、プルアップ体 4 8 の一部に不連続部 5 0 が形成されているものが好ましい。不連続部 5 0 を形成することにより、陰唇間パッド 4 4 に吸収された経血の滲出が不連続部 5 0 において遮断されるため、経血がプルアップ体 4 8 にまで滲出し、陰唇間パッド 4 4 の取り外しの際に、経血が指に付着してしまう事態を防止することができる。

【 0 0 3 4 】

（７） 前記不連続部が、前記プルアップ体に形成された開口部又は切り込み部である上記（６）に記載の陰唇間パッド。

【 0 0 3 5 】

不連続部の具体的な例としては、例えば、図 1 3 に示すように、プルアップ体 4 8 に形成した開口部 5 0 a 又は切り込み部を挙げることができる。陰唇間パッド 4 4 に吸収された経血の滲出を防止するためには、パッドの短手方向に向かって長い横長の形状であることが好ましい。

【 0 0 3 6 】

（８） 前記プルアップ体に形成された開口部又は切り込み部が、角を有しない形状である上記（７）に記載の陰唇間パッド。

【 0 0 3 7 】

プルアップ体に形成された開口部又は切り込み部は、図 1 3 に示す開口部 5 0 a のように角を有する形状であってもよいが、例えば、図 1 4 に示す開口部 5 0 b のように角を有しない形状であることが好ましい。即ち、陰唇間から陰唇間パッド 4 4 を取り外す際には、プルアップ体 4 8 を身体前方側に向かって引っ張る

ことになるが、図 13 に示す開口部 50a のような角を有する形状とした場合には、角の部分に応力が集中し、当該角の部分からプルアップ体が破断してしまうおそれがある。この点、図 14 に示す開口部 50b のような角を有しない形状（曲率を有する形状）とすれば、応力が分散し、このような事態を防止することができる。

【0038】

(9) 前記プルアップ体と前記周縁接合部との境界近傍に、液体の滲出を抑制するための圧縮域が形成されている上記(1)～(8)のいずれかに記載の陰唇間パッド。

【0039】

本明細書にいう「圧縮域」とは、プルアップ体と周縁接合部との境界近傍に位置する、少なくとも吸収体を圧縮することにより形成される領域である。圧縮された吸収体は高密度となるために液体の滲出を抑制することができるという効果を奏する。従って、プルアップ体に経血が滲み出すことを未然に防止することができ、プルアップ体を引っ張ってパッドを取り外す際に経血が指に付着してしまう事態を回避することができる。

【0040】

圧縮域は、例えば、エンボス加工等（好ましくは、熱エンボス加工）を利用して、少なくとも吸収体を圧縮加工することにより形成することができる。但し、製造時の簡便性を考慮すれば、吸収体とともに被覆シートやサポートシートを圧縮加工することが好ましい。圧縮域を形成するエンボスの配列は、例えば、線状、ドット状などが挙げられるが、陰唇内における柔軟な装着性を考慮すると、ドット状であることがより好ましい。ドット状の場合には、例えば 0.3～1.0 mm² のドット状のエンボスを、0.5～2 mm の間隔を空けて配列したパターンとすることが好ましい。

【0041】

圧縮域は、長さ（パッドの長手方向の寸法）は、着用中の硬さを考慮して、0.3～2 mm の範囲であることが好ましく、幅（吸収体の外縁に沿って圧縮域を形成した場合における延べ寸法）は、陰唇内における柔軟な装着性を考慮して、

3 ～ 2 0 mm の範囲であることが好ましい。

【 0 0 4 2 】

(1 0) 前記サポートシートの衣服側に、当該サポートシートの長手方向の各側部において一箇所以上の接合部分と、当該サポートシートの短手方向において一箇所以上の非接合部分と、をもって接合されたミニシート片を備え、前記一箇所以上の非接合部分の少なくとも一つが、前記ミニシート片と前記サポートシートとの間において、前記サポートシートの面方向に指幅の開口が直接的に確保される指挿入用口を形成するものである上記 (1) ～ (9) のいずれかに記載の陰唇間パッド。

【 0 0 4 3 】

本発明の陰唇間パッドには、例えば、図 1 5 又は図 1 6 に示すように、指挿入用口 5 3 を形成するためのミニシート片 5 2 を付設することができる。図 1 5 、図 1 6 に示すように、ミニシート片 5 2 は、サポートシート 4 2 の短手方向においては、ミニシート片 5 2 の両袖部のうち少なくとも一方の袖部が、サポートシート 4 2 の表面に対して接合されていない。これにより、非接合状態にあるミニシート片 5 2 の一方の袖部とサポートシート 4 2 との間に袖口が形成され、かかる袖口が指の挿入が可能な指挿入用口 5 3 となる。

【 0 0 4 4 】

また、サポートシート 4 2 の長手方向においては、ミニシート片 5 2 はサポートシート 4 2 の左右側部においてのみ接合され、内側については接合（貼着）されていない。このため、ミニシート片 5 2 はサポートシート 4 2 の一の側部から他の側部にまたがった状態に取り付けられることとなり、かかる一の側部から他の側部にまたがった部分において、貫通した或いは非貫通の空間（指挿入用空間）が形成される。かかる空間には、指を挿入して保持することが可能である。

【 0 0 4 5 】

ここで、本明細書において「指幅」とは、指の厚みではないことを意味し、具体的には爪の広がり方向の指の幅のことをいい、「指幅の開口」とは、指を挿入することができるのに十分な大きさを有する開口をいう。

【 0 0 4 6 】

また、サポートシートの面方向に指幅の開口が「直接的に確保される」とは、パッド装着のために指をパッドに自然な形で挿入した場合に（指の腹がサポートシートの衣服側表面に向くようにしてそのまま挿入した場合に）、パッド自体が一次的に指挿入に適するような形となるように形成されていることを意味する。このため、着用者が指を挿入した後に指を回転させることにより面方向に指幅の開口を確保できるというような、二次的にサポートシートの面方向に指幅の開口が形成される場合は除かれることとなる。

【 0 0 4 7 】

以上に説明したようなミニシート片を備えたパッドにおいては、前記指挿入用口に指を挿入することにより、指先にパッドを一時的に固定して保持することが可能となる。この場合において、指挿入用口は、着用者の指幅の開口となるように形成されているため、扁平な形状である指先が、サポートシートに対して異方向となることなく、自然にサポートシートの面に接するように挿入されるようになる。即ち、指挿入用口が着用者の指先形状に倣ってサポートシートの面方向に幅広な形状となっているため、着用者の指挿入方向が決定され、指先の腹で装着ポイントを探知するように着用者を仕向けることができるのである。これにより、目視困難な陰唇間への装着であっても、正確な装着ポイントを的確に把握しながら、適切な位置にパッドを装着することが可能となる。

【 0 0 4 8 】

なお、本発明において、サポートシートの長手方向における「側部」には、パッドの周縁部のみならず、ミニシート片の接合可能な周縁部近傍も含まれる。

【 0 0 4 9 】

(1 1) 前記ミニシート片の一部がプルアップ体とされている上記 (1 0) に記載の陰唇間パッド。

【 0 0 5 0 】

既述の如く、本発明におけるプルアップ体は、周縁接合部全体を突出させたり、或いは被覆シートやサポートシートのみを突出させることによって形成することができるが、前記ミニシート片の一部を延出することによってプルアップ体を形成してもよい。例えば図 3 2 ～ 3 4 に示す陰唇間パッドは、帯状のミニシー

ト片 5 2 の側縁部を更にパッドの側方に延出させることによって、プルアップ体 4 8 を形成したものである。この態様では、ミニシート片 5 2 の中央部がサポートシート 4 2 との間で指挿入用の空間を形成するとともに、その端部がプルアップ体 4 8 を形成することになる（図 3 4 参照）。このような態様も別途プルアップ体を付設する態様と比較して、より簡便にプルアップ体を形成することができるという利点がある。

【 0 0 5 1 】

(1 2) 生理用ナプキンと併用される生理用ナプキン併用用陰唇間パッドである上記 (1) ～ (1 1) のいずれかに記載の陰唇間パッド。

【 0 0 5 2 】

生理用ナプキン（以下、単に「ナプキン」と記す。）の利用者の中には、経血の量が多いときは何枚か重ねて使用するという者もいるが、ゴワゴワする等、装着感が悪く、衣服の外部からパッドの存在を察知され易い（目立つ）という問題があった。また、膣近傍以外の重ね使用が不要な部分にまでナプキンが重ねられてしまうため、かぶれやムレの原因ともなっていた。しかし、パッドとナプキンを併用することにより、膣近傍のみに生理用品が重ねられることとなるため、上記の問題を回避することが可能である。更には、ナプキンを交換することなく、パッドのみを交換することができるため、着用者は人目につき易い大きさのナプキンを持ち歩かずに済む、という効果もある。

【 0 0 5 3 】

(1 3) 上記 (1) ～ (1 2) のいずれかに記載の陰唇間パッドが個別包装用の包装容器に内包されている包装体。

【 0 0 5 4 】

陰唇間パッドを個別包装すると、パッドを一つずつ（個別包装毎に）持ち運ぶことが可能となる。このような形態は、複数のパッドを 1 つの包装容器内に内包させた場合と比較して、パッドを清潔に保ちつつ、持ち運びが容易となり、簡便な取扱いに資する。

【 0 0 5 5 】

(1 4) 上記 (9) ～ (1 2) のいずれかに記載の陰唇間パッドが、開封口

を有する個別包装用の包装容器に内包されている包装体であって、前記陰唇間パッドが、前記指挿入用口が前記開封口に向かって開口するように、前記包装容器に内包されている包装体。

【0056】

「指挿入用口が開封口に向かって開口するように」とは、図17に示すように、包装体54を開封するとその開封口にミニシート片52、ひいてはそれによって形成される指挿入用口53が表出し、即時に指挿入用口53に指を挿入することができるように内包されていることを意味する。例えば、図17に示す包装体54は、包装容器56の上面側に付設されたタブテープ55を、図の右側に向かって引っ張ることにより開封することができ、その開封口に指挿入用口53が表出し、開封口に向かって開口する。従って、着用者は、即時に指挿入用口53に指を挿入することができる。

【0057】

(15) 前記陰唇間パッドが、前記ミニシート片が前記陰唇間パッドの長手方向の略中心線に沿って衣服側方向に向かって山折り状となるように、前記包装容器に内包されている上記(14)に記載の包装体。

【0058】

「衣服側方向に山折り状となるように」とは、衣服側を凸として完全に折曲されている場合の他、図18に示すように、衣服側を凸として湾曲させられている場合も含む意味である。このように、陰唇間パッド44を包装容器66内に内包させることによって、包装容器66の開封時に折り畳まれた指挿入用口53が自然に開くため、着用者は指を挿入する箇所を容易に把握することができ、陰唇間パッドの装着を一層迅速かつ簡易なものとすることができる。

【0059】

この態様においては、ミニシート片が「山折り状」となっていればよく、陰唇間パッド全体が「山折り状」となっていることを要しない。従って、例えば図18に示すように、陰唇間パッド44全体を「山折り状」に折り畳んで包装容器66内に内包した包装体64以外に、図19に示すように、ミニシート片52のみを「山折り状」とする一方、陰唇間パッド44の本体部分については、衣服側に

向かって谷折り状に折り畳んで包装容器 66 内に内包した包装体 74 であってもよい。

【0060】

また、包装容器の開封形式は特に限定されず、図 18 や図 19 に示すように、その上端側を切り取って開封する包装容器 66 の他、図 20 に示すように、上端から左右両側に（いわゆる観音開き式に）開封する包装容器 86 のようなものであってもよい。

【0061】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の好適な実施形態の例について図面を参照しながら詳細に説明する。なお、本明細書において、陰唇間パッドの「幅」というときは陰唇間パッドの短手方向への寸法を意味し、陰唇間パッドの「長さ」というときは陰唇間パッドの長手方向への寸法を意味する。

【0062】

図 1 は、本発明に係る陰唇間パッド 14 を示す図であり、(a) は上面図であり、(b) は (a) の A-A' 断面図である。

【0063】

[(A) 基本的な陰唇間パッドの構成]

図 1 (a) 及び図 1 (b) に示すように、本発明の基本的な陰唇間パッド 14 は、透水性の被覆シート 11 と不透水性のサポートシート 12 とが経血を吸収する吸収体 13 を内包させた形態で接合されて成るものである。被覆シート 11 とサポートシート 12 とは、パッドの周縁部において接合され、周縁接合部 15 を形成している。着用時には被覆シート 11 を身体側に対向させ、サポートシート 12 を衣服側に対向させるようにして用いられる。そして、図示の例では、サポートシート 12 にプルアップ体 18 が貼着されている。

【0064】

プルアップ体は、被覆シートとサポートシートとの周縁接合部を延出させてプルアップ体としてもよく、被覆シートやサポートシートのみを延出させてプルアップ体としてもよいが、図 1 に示すように、プルアップ体 18 を別途付設しても

よい。この場合においては、特に材質は限定されないが、被覆シートやサポートシートと同様の材質などを用いることができる。

【0 0 6 5】

プルアップ体の形状は特に限定されないが、プルアップ体を摘んで陰唇間パッドを取り外す際に陰唇内壁に指が接触せず、パッドを着用した際にプルアップ体が陰裂よりも前方に突出し、着用者が直接目視によって視認できる形状であることが必要である。従って、図示のようにプルアップ体 1 8 を、陰唇間パッド 4 4 の長手方向の縁端（身体前方側に近い方の縁端）において、当該縁端の先端から更に身体前方側に向かって突出するように形成した場合には、その長さは少なくとも 5 mm 以上であることが好ましく、8 ～ 3 0 mm の範囲であることが更に好ましい。この範囲未満であると、着用者がプルアップ体を視認することができないために、陰唇内壁および陰唇周辺に指が接触してしまうことになる。この範囲を超えると、着用中にプルアップ体が型崩れを起こし、取り外しの際にプルアップ体をつまみ難くなる可能性がある。幅としては、取り外しの際の摘み易さを考慮すれば、少なくとも 5 mm 以上とすることが好ましい。

【0 0 6 6】

陰唇間パッド 1 4 の全体形状としては、陰唇に係着するのに好適な形状であれば特に限定されないが、実質的に縦長の形状であることが好ましく、例えば、楕円型、卵型、ひょうたん型、雫型等の形状とすることができる。

【0 0 6 7】

陰唇間パッド 1 4 のサイズは、陰唇間に挿入し易く、陰唇自体で保持することができ、陰唇と陰唇間パッドとの間に空隙を生じないことを考慮した上で決定することが好ましい。このような観点から、長さは 8 0 ～ 1 5 0 mm の範囲であることが好ましく、9 0 ～ 1 2 0 mm の範囲であることが更に好ましい。この範囲を超えると陰唇間パッドの陰唇間に挟み込まれない部分がナブキンやショーツに接触することによって、陰唇間パッドが陰唇間から脱落するおそれがある。この範囲未満であると、陰唇内壁と陰唇間パッドとの接触面積が小さくなることにより陰唇間パッドと陰唇との間に空隙が生じ易くなり、体圧や着用者の動作等の衝撃により陰唇間パッドが陰唇間から脱落する危険性が生じる。幅は 1 0 ～ 6 0 m

mの範囲であることが好ましく、25～50mmの範囲であることが更に好ましい。この範囲を超えると陰唇間パッドの側縁部が、大腿部と接触し摩擦を生じることにより、陰唇自体では陰唇間パッドを保持することができなくなり、陰唇間パッドが陰唇間から脱落するおそれがある。この範囲未満であると、陰唇内壁と陰唇間パッドとの接触面積が小さくなることにより陰唇間パッドと陰唇との間に空隙が生じ易くなり、体圧や着用者の動作等の衝撃により陰唇間パッドが陰唇間から脱落する危険性が生じる。厚さについては、快適な着用感を考慮して、2～10mmの範囲とすることが好ましく、3～6mmの範囲とすることが更に好ましい。

【0068】

被覆シート11及び／又はサポートシート12に内包される吸収体13のサイズは、被覆シート11及び／又はサポートシート12に内包した際にその周縁部が硬くなり装着感を悪化させることを防止するべく、被覆シート11及び／又はサポートシート12の外輪郭から2～10mm程度小さく構成することが好ましい。

【0069】

陰唇間パッドの全体的な形態としては、例えば、図21に示すような、被覆シート11とサポートシート12との間に吸収体13を内包させ、陰唇間パッドの周縁部において、被覆シート11とサポートシート12とを接合して、周縁接合部15を形成した貼り合わせタイプのものが挙げられる。この態様においては、被覆シート11と吸収体13との間に更に透水性材料が介在していてもよい。この他の態様としては、図示しないが、吸収体の下面側にサポートシートを配置した後、両部材を一体的に被覆シートで被包して成る封入タイプのもの等がある。

【0070】

更に他の態様としては、例えば、図22に示すように、吸収体13の一部を身体側に向かって凸型に隆起せしめた立体的な構造を有するもの、図23に示すように、幅の異なる上部吸収体13aと下部吸収体13bとを積層し、その前後部分ないし当接部分を相互に接合せしめた立体的な構造を有するもの等が挙げられる。このような立体的構造を有するものは、陰唇形状に対する適合性が高い点に

において好ましい。

【0071】

[被覆シート]

被覆シートは、陰唇内壁と直接接触する部分であるため、肌に刺激を与えない材料により構成することが好ましい。例えば、メルトブローン、スパンボンド、スルーエア、ポイントボンド、ニードルパンチ、スパンレース等の製造方法によって得られる不織布材料を単独で、又は適宜複合せしめたものを使用することができる。より具体的には、レーヨン、アセテート、天然コットン、パルプ、又は合成樹脂（単独繊維、或いは芯鞘構造の複合繊維）を単独で、或いは適宜混合してシート化したものが挙げられる。経血などの液体を素早く透過させ得ることを考慮すると、セルロース系繊維を70%以上混合した繊維を目付20～50 g/m²の範囲に調整した後、水流交絡させた後に、乾燥させ、厚みを0.3 mm～1.0 mmの範囲に調節したスパンレース不織布を用いることが好ましい。

【0072】

[吸収体]

吸収体は、嵩高であり、型崩れが比較的少ない材料により構成することが好ましい。例えば、粉碎パルプ、レーヨン、アセテート、天然コットン、ケミカルボンド処理されたエアレイドパルプ、高吸水性ポリマー、繊維状高吸収性ポリマー、合成繊維などを適宜混合したもの等が挙げられる。また、既述の被覆シートを陰唇間パッド内部に充填することにより、吸収体としてもよい。

【0073】

吸収体のより具体的な構成としては、1.1～6.6 d t e x の範囲から選ばれるレーヨン又はアセテートを60～90%、繊維状高分子吸収体を10～40%の混合比で積層した繊維を、ニードリングにより絡ませ、シート化した目付50～250 g/m²、2～5 mmの嵩を有する不織布シートが挙げられる。当該不織布シートを陰唇間パッド内部に組み込む際には、必要に応じて、重ねたり、折り畳んだりすることによって、嵩を調整することは可能である。

【0074】

[サポートシート]

サポートシートに使用する材料は、吸収体に保持された経血が陰唇間パッドの外へ漏れ出すことを防止することができる不透水性の素材を用いる。更に、透湿性素材から成ることにより、装着時のムレを低減させることができ、装着時における不快感を低減させることが可能となる。

【0075】

サポートシートに用いる不透水性素材としては、例えば、合成樹脂を薄膜化したシート状不透水性フィルム、通気性フィルム、不織布の裏面にフィルムをラミネート加工して成る複合体などが挙げられる。不透水性の素材を採用する場合のより具体的な構成例としては、低密度ポリエチレン（LDPE）樹脂を主体とした、密度 $0.900 \sim 0.925 \text{ g/cm}^3$ 、目付 $15 \sim 30 \text{ g/m}^2$ の範囲から得られるフィルムが挙げられる。着用感を損なわない柔軟性を考慮したものである。

【0076】

[ミニシート片]

ミニシート片に使用する材料は、指を挿入した際に破損しない程度の強度を有することを考慮した上で選択することが好ましく、シート状不織布、弾性伸縮性不織布、フィルム、フォームフィルム、エラスティックフィルム、発泡シート、薄葉紙等を単独で又はこれらをラミネート加工したものの中から選択することが可能である。

【0077】

ミニシート片の形態としては、例えば、図24に示すように、陰唇間パッド44を構成するサポートシート42の衣服側表面に沿って、陰唇間パッド44の短手方向に帯状のミニシート片52を横断的に配置する形態が挙げられる。この形態では、ミニシート片52は陰唇間パッド44の両側端において固定され、陰唇間パッド44の長手方向に向かって開口部、即ち指挿入用口53が形成されている。

【0078】

上記形態においては、指91の腹をサポートシート42に当接させながら指挿入用口53に指91を挿入すると、図25に示すように、陰唇間パッド44の長

手方向と陰裂 9 2 の方向とが同一方向を向く。そして、指 9 1 の腹で陰唇間パッド 4 4 を陰唇内部に押し込むことができるため、陰唇間パッド 4 4 を確実に装着することが可能となる。

【0079】

また、ミニシート片は、例えば、図 2 6 に示すように、陰唇間パッド 4 4 の長手方向の中央部近傍から当該長手方向の一の縁端 9 3 まで、陰唇間パッド 4 4 を構成するサポートシート 4 2 が完全に被覆されるように構成してもよい。このような形態は、指 9 1 の先端がミニシート片 5 2 から露出することが防止され、経血と指 9 1 とが非接触の状態に保たれるため、衛生的な取扱いが可能となる点において好ましい。

【0080】

なお、例えば、図 2 7 に示すような、帯状のミニシート片 5 2 を間隔を空けて複数形成した陰唇間パッド 4 4 も、指 9 1 の先端がミニシート片 5 2 から露出することが防止されるため、図 2 6 に示す陰唇間パッド 4 4 と同様に、衛生的な取扱いが可能となるという効果を得ることができる。

【0081】

また、陰唇間パッドにミニシート片を付設する際には、例えば、図 2 8 に示すように、陰唇間パッド 4 4 全体を長手方向の略中心線に沿って身体側に向かって山折り状に折曲し、その立体的形状を保持するようにミニシート片 5 2 を誇設することが好ましい。このような構造は、陰唇間パッドが陰唇形状に適合し易くなる点において好ましい。また、図 3 5 に示すように、ミニシート片 5 2 の側端部を更に陰唇間パッド 4 4 の側方に延出してプルアップ体 4 8 としたものは、別途プルアップ体を付設する態様と比較して、より簡便にプルアップ体を形成することができるという利点があるため好ましい。

【0082】

[接合方法]

上記の各部材は、ヒートエンボス加工、超音波シール、或いはホットメルト型接着剤による接着等を単独で使用して、又は併用することによって接合されている。この際、吸収体が、被覆シート、サポートシートと分離してしまうことを防

止するために、被覆シート、サポートシートに対して貼着しておいてもよい。陰唇間パッド14使用時（経血による湿潤時）には上記各部材の分離が生じ易いが、これを防止するためには、上記各部材をヒートエンボス加工により接着することがより好ましい。ヒートエンボス加工は、ドット状、或いはスクリーンパターン状に接着することが可能であり、エンボス部分の面積率を全面積の3～30%の範囲とすることにより、被覆シートの透水性を減殺することなく使用時（湿潤時）の強度を向上させることが可能である。また、このようにすることによって、全面積の70～97%が非接合の状態となるため、陰唇間パッド全体に対する衝撃が被覆シートに伝達し難くなり、陰唇間パッドが陰唇から脱落する危険性を低下させることができる。

【0083】

[包装容器]

本発明の陰唇間パッドを包装する包装容器は、従来公知のものをを用いることができる。例えば、PE（ポリエチレン）、PP（ポリプロピレン）、PET（ポリエチレンテレフタレート）等から成る不織布や厚さ15～60 μ m程度のフィルム、紙、或いはこれらをラミネート加工したラミネート材などが挙げられる。

【0084】

[（B） 生分解性・水分散性・水溶性を付与した陰唇間パッドの構成]

本発明の陰唇間パッドは生分解性素材及び／又は水分散性素材及び／又は水溶性素材で構成されていることが好ましい。このような陰唇間パッドは使用后そのままトイレに脱落させて流すことができるため、陰唇間パッドの破棄を簡便かつ清潔に行うことができ、トイレ内のゴミの低減を図ることもできるからである。

【0085】

本明細書において、「生分解性」とは、放線菌をはじめとする細菌、その他の微生物の存在下、自然界のプロセスに従って、嫌気性又は好気性条件下で物質が二酸化炭素又はメタン等のガス、水及びバイオマスに分解されることをいい、当該物質の生分解能（生分解速度、生分解度など）が、落ち葉等の自然に生じる材料、もしくは同一環境下で生分解性として一般に認識される合成ポリマーに匹敵することをいう。「水分散性」とは、水解性と同じ意味であって、使用時の限定

された量の水分（経血）では影響はないものの、多量の水または水流中では、繊維同士が、少なくとも一般のトイレ配管を詰まらせることがない程度の小断片に容易に分散される性質のことをいう。「水溶性」とは、使用時の限定された量の水分（経血）では影響はないものの、多量の水または水流中においては溶解する性質のことをいう。

【0086】

〔被覆シート〕

生分解性・水分散性・水溶性を付与するための被覆シートの材料としては、例えば、繊維長を1～1.5mmの範囲とした湿式спанレース不織布が挙げられる。また、ポリ乳酸、ポリブチレンサクシネート等の生分解性樹脂、アセテート又はレーヨン、合成繊維などの単独または連続繊維であるトウを50～300g/m²の範囲に調整し、解繊したものを使用することもできる。

【0087】

〔吸収体〕

生分解性・水分散性・水溶性を付与するための吸収体の素材としては、前記被覆シートと同様のものを用いることができる。また、1.1～6.6d texの範囲から選ばれるレーヨン又はアセテートを60～90%、繊維状高分子吸収体を10～40%の混合比で積層した繊維を、ニードリングにより絡ませ、シート化した目付50～250g/m²、2～5mmの嵩を有する不織布シートを用いてもよい。前記不織布シートをカルボキシメチルセルロース繊維により構成すると、生分解性・水分散性・水溶性が向上する点においてより好ましい。

【0088】

〔サポートシート〕

生分解性・水分散性・水溶性を付与することができ、かつ、不透水性のサポートシートの素材としては、PVA（ポリビニルアルコール）フィルム、PVAフィルムの片面または両面にシリコン樹脂などにより撥水処理を施したシート、シリコン樹脂を混合したPVAフィルム、デンプンフィルム、ポリ乳酸またはポリブチレンサクシネート等の生分解性樹脂を原料としたフィルム及びこれらとティッシュ等とのラミネート材などが挙げられる。

【0089】**[ミニシート片]**

生分解性・水分散性・水溶性を付与するためのミニシート片の素材としては、ポリ乳酸、ポリブチレンサクシネート、PVA樹脂等の生分解性または水溶性樹脂からなるシート状物が挙げられる。

【0090】**[プルアップ体]**

生分解性・水分散性・水溶性を付与するためのプルアップ体の素材としては、既述の被覆シートやサポートシートと同様の材質などを用いることができる。また、前記ミニシート片と同様の素材を用いてもよい。

【0091】**[接合方法]**

また、生分解性・水分散性・水溶性を付与するための接合方法としては、熱可塑性PVA樹脂を主体とする接着剤による接着、或いはデンプン糊、アクリル酸を主体とし、架橋剤、可塑剤または水を含んで成るゲルによる接着などが挙げられる。

【0092】**[包装容器]**

生分解性・水分散性・水溶性を付与するためには、包装容器を、水溶性繊維を使用した繊維シート、生分解性又は水溶性樹脂を使用したフィルム、或いは上記繊維シートと上記フィルムのラミネート材、上記フィルムとティッシュとのラミネート材等で構成するとよい。

【0093】**【発明の効果】**

以上説明したように、本発明においては、陰唇間パッドを陰唇に係着させた状態において、身体前方側に向かって突出するプルアップ体を備えたものとしたので、着用者の肌を広く汚すことのない清潔性と、下着への汚れの付着が低減される安心感という、基本的な性能を担保するのは勿論のこと、陰唇間から迅速かつ簡便に、しかも衛生的に取り外すことが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の陰唇間パッドの構成を示す図であって、（a）は上面図、（b）は（a）の A - A' 断面図である。

【図 2】 従来の尿失禁防止器具の構成を示す斜視図である。

【図 3】 本発明の陰唇間パッドの構成を示す上面図である。

【図 4】 本発明の陰唇間パッドの構成を示す底面図である。

【図 5】 本発明の陰唇間パッドの折り曲げた状態の構成を示す側面図である。

【図 6】 本発明の陰唇間パッドの構成を示す上面図である。

【図 7】 本発明の陰唇間パッドの折り曲げた状態の構成を示す側面図である。

【図 8】 本発明の陰唇間パッドの構成を示す上面図である。

【図 9】 図 8 に示す陰唇間パッドの A - A' 断面図である。

【図 1 0】 本発明の陰唇間パッドの構成を示す断面図である。

【図 1 1】 本発明の陰唇間パッドの構成を示す断面図である。

【図 1 2】 本発明の陰唇間パッドの構成を示す上面図である。

【図 1 3】 本発明の陰唇間パッドに係るプルアップ体の拡大図である。

【図 1 4】 本発明の陰唇間パッドに係るプルアップ体の拡大図である。

【図 1 5】 本発明の陰唇間パッドの構成を示す斜視図である。

【図 1 6】 本発明の陰唇間パッドの構成を示す斜視図である。

【図 1 7】 本発明の包装体の開封方法を示す工程図である。

【図 1 8】 本発明の包装体の構成を示す斜視図である。

【図 1 9】 本発明の包装体の構成を示す斜視図である。

【図 2 0】 本発明の包装体の構成を示す斜視図である。

【図 2 1】 本発明の陰唇間パッドの構成を示す断面図である。

【図 2 2】 本発明の陰唇間パッドの構成を示す断面図である。

【図 2 3】 本発明の陰唇間パッドの構成を示す断面図である。

【図 2 4】 本発明の陰唇間パッドに係るミニシート片の態様を示す上面図である。

【図 2 5】 本発明の陰唇間パッドの装着方法を示す説明図である。

【図 2 6】 本発明の陰唇間パッドに係るミニシート片の態様を示す上面図であ

る。

【図 27】 本発明の陰唇間パッドに係るミニシート片の態様を示す上面図である。

【図 28】 本発明の陰唇間パッドの構成を示す断面図である。

【図 29】 本発明の陰唇間パッドの構成を示す上面図である。

【図 30】 本発明の陰唇間パッドの折り曲げた状態の構成を示す側面図である。

【図 31】 本発明の陰唇間パッドの取り外し・廃棄方法を示す工程図である。

【図 32】 本発明の陰唇間パッドの構成を示す上面図である。

【図 33】 本発明の陰唇間パッドの構成を示す底面図である。

【図 34】 図 32 に示す陰唇間パッドの A-A' 断面図である。

【図 35】 本発明の陰唇間パッドの構成を示す断面図である。

【符号の説明】

- 11, 41 被覆シート
- 12, 42 サポートシート
- 13, 43 吸収体
- 13a 上部吸収体
- 13b 下部吸収体
- 14, 44 陰唇間パッド
- 15, 45 周縁接合部
- 18, 48 プルアップ体
- 24 尿失禁防止器具
- 26 弾性本体
- 28 リング
- 46a 略中心線（長手方向）
- 46b 略中心線（短手方向）
- 50 不連続部
- 50a, 50b 開口部
- 52 ミニシート片

5 3 指挿入用口

5 4 , 6 4 , 7 4 , 8 4 包装体

5 5 タブテープ

5 6 , 6 6 , 8 6 包装容器

5 7 陰唇

5 8 手

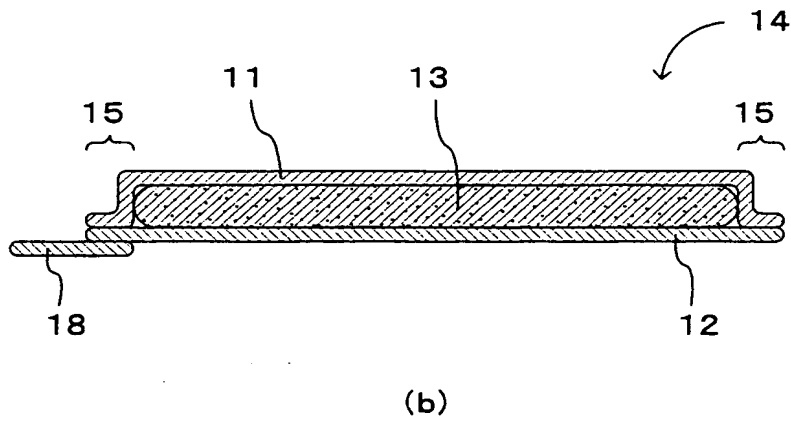
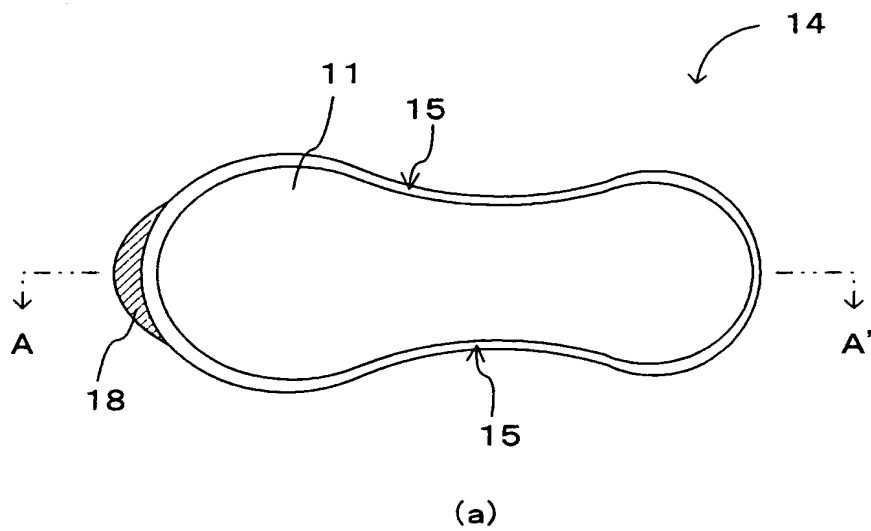
9 1 指

9 2 陰裂

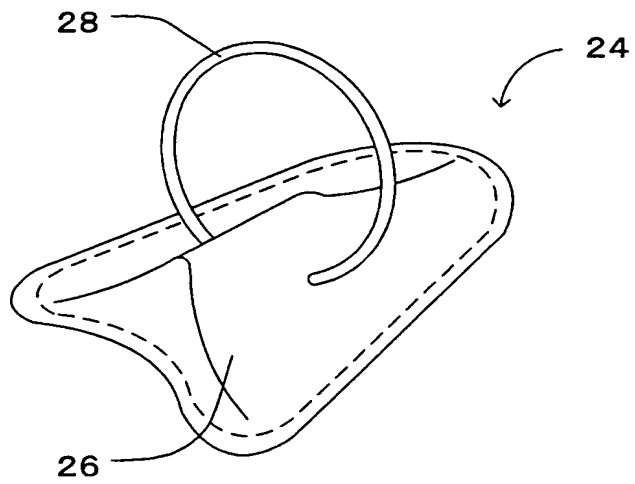
9 3 縁端

【書類名】 図面

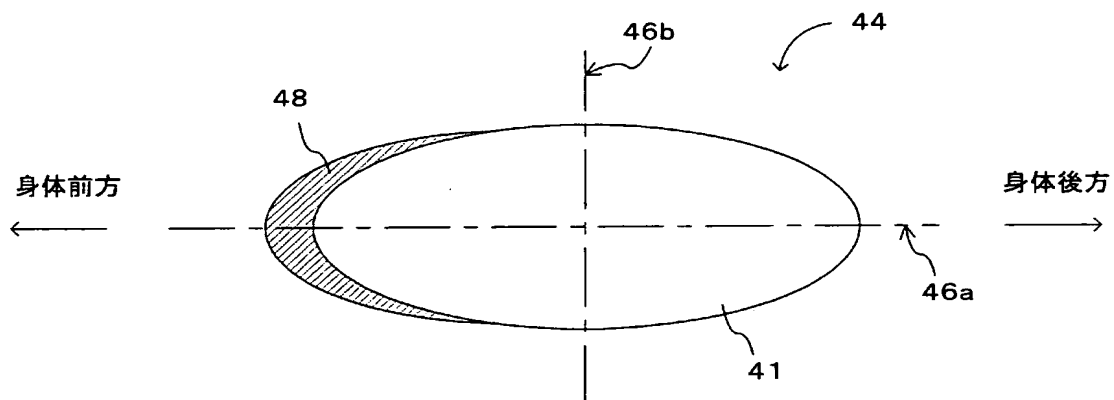
【図1】



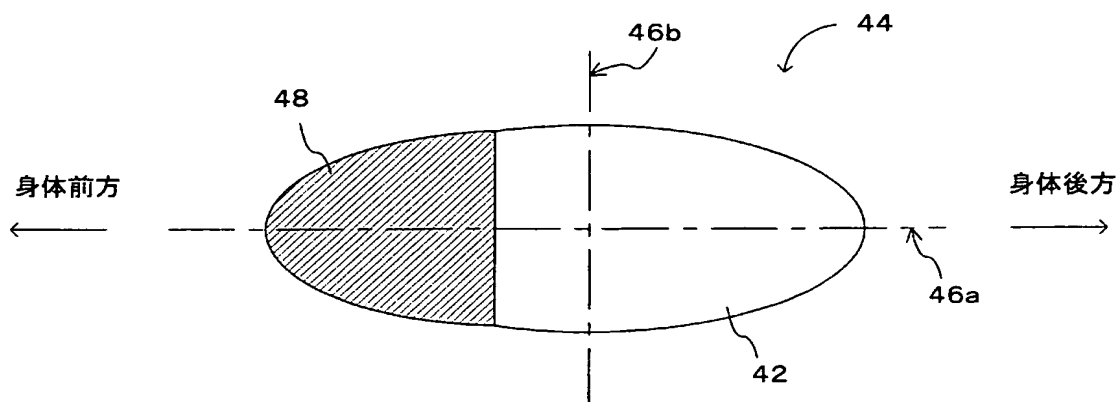
【図 2】



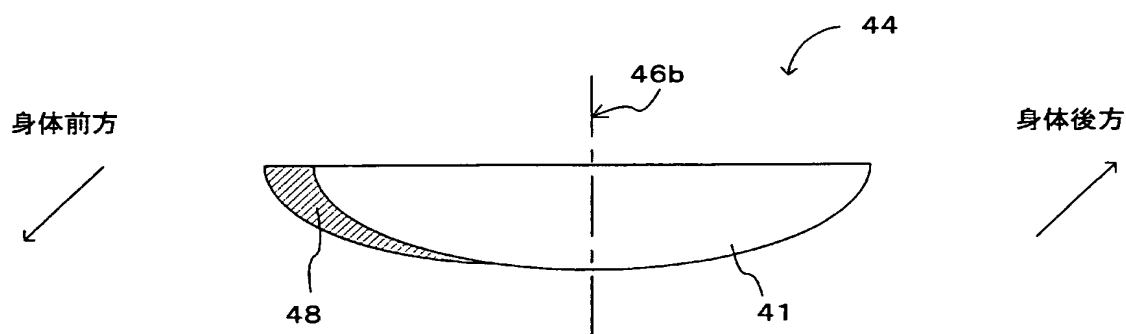
【図 3】



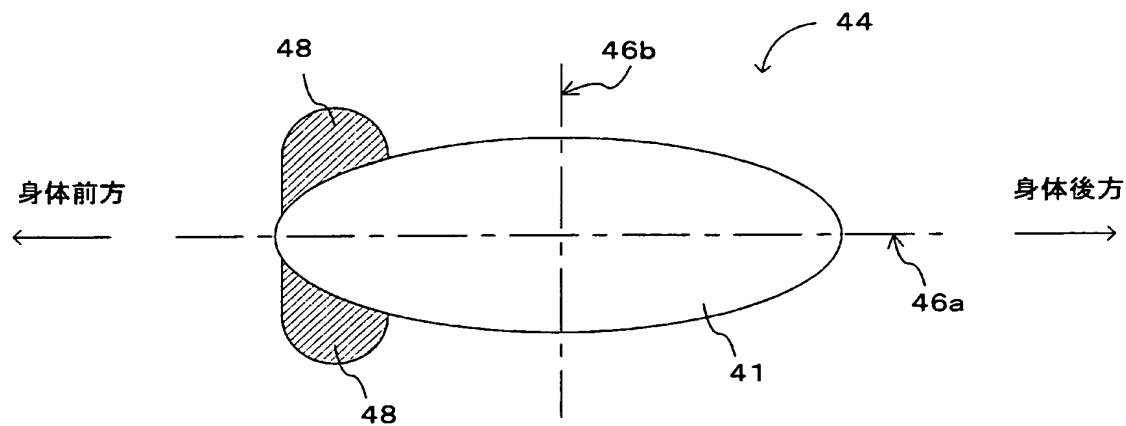
【図 4】



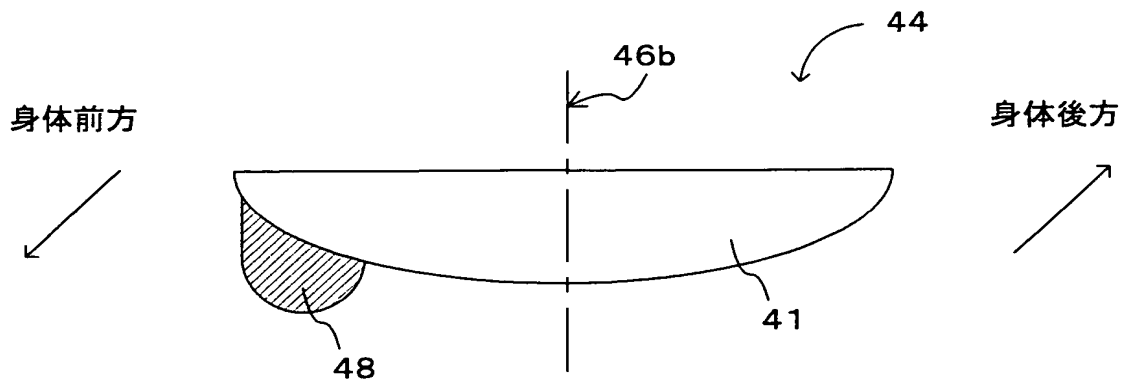
【図 5】



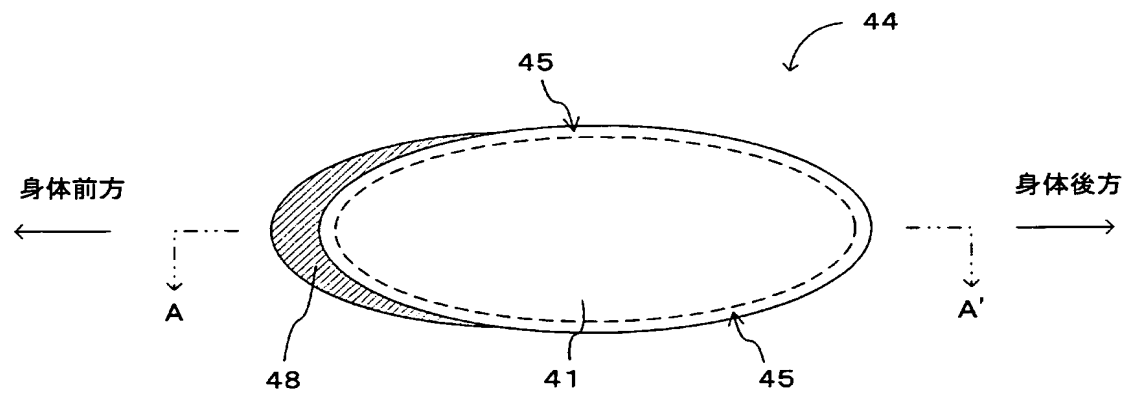
【図 6】



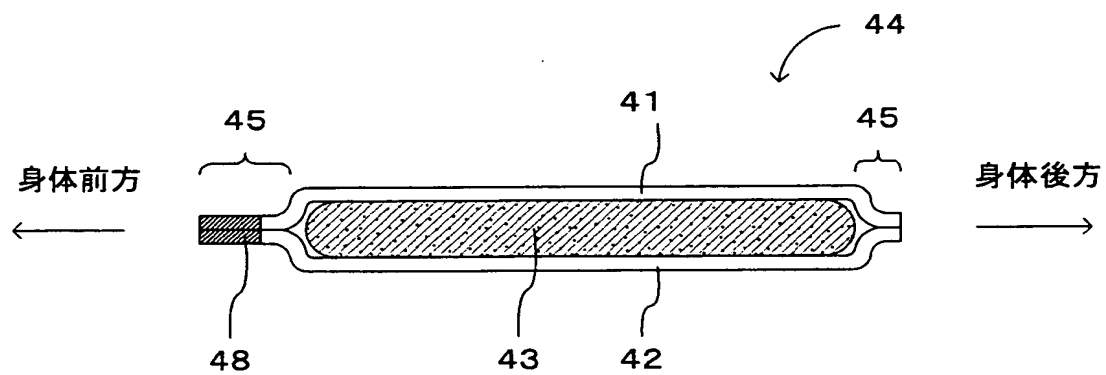
【図 7】



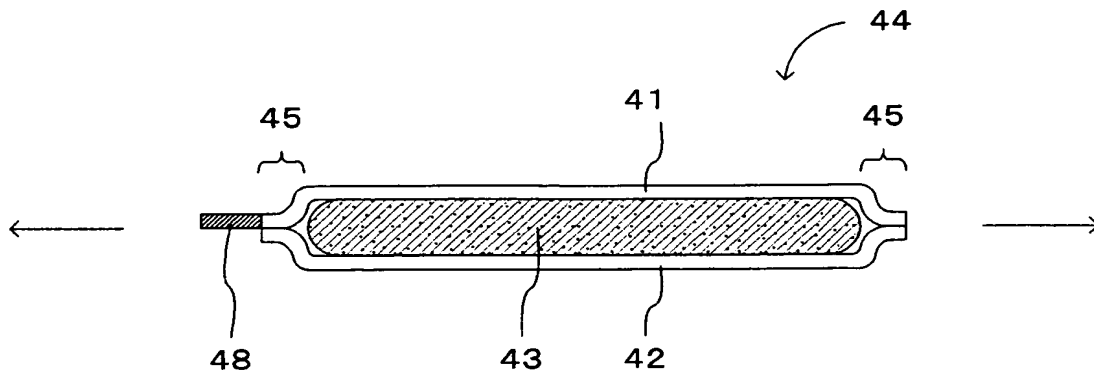
【図 8】



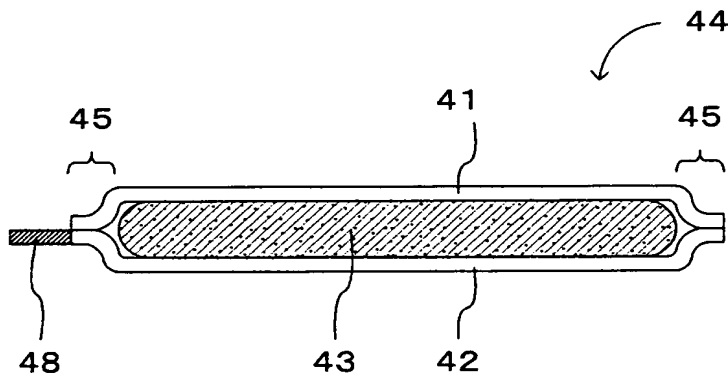
【図 9】



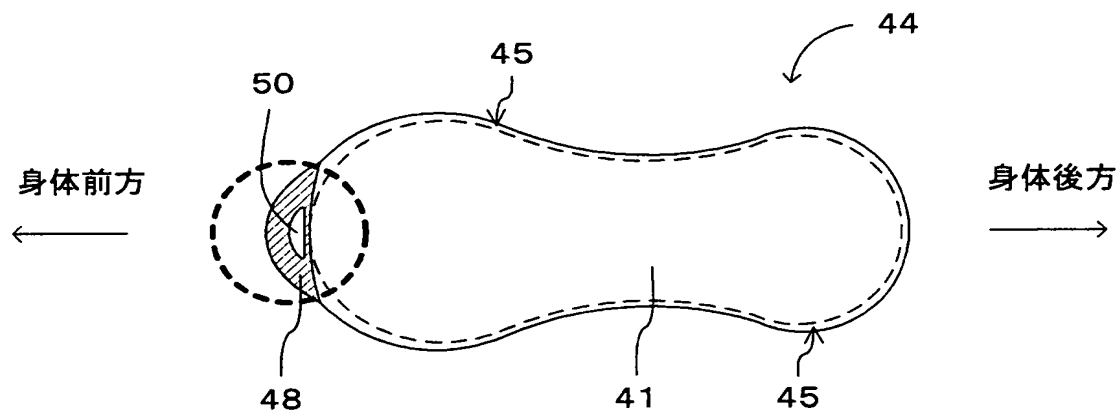
【図 10】



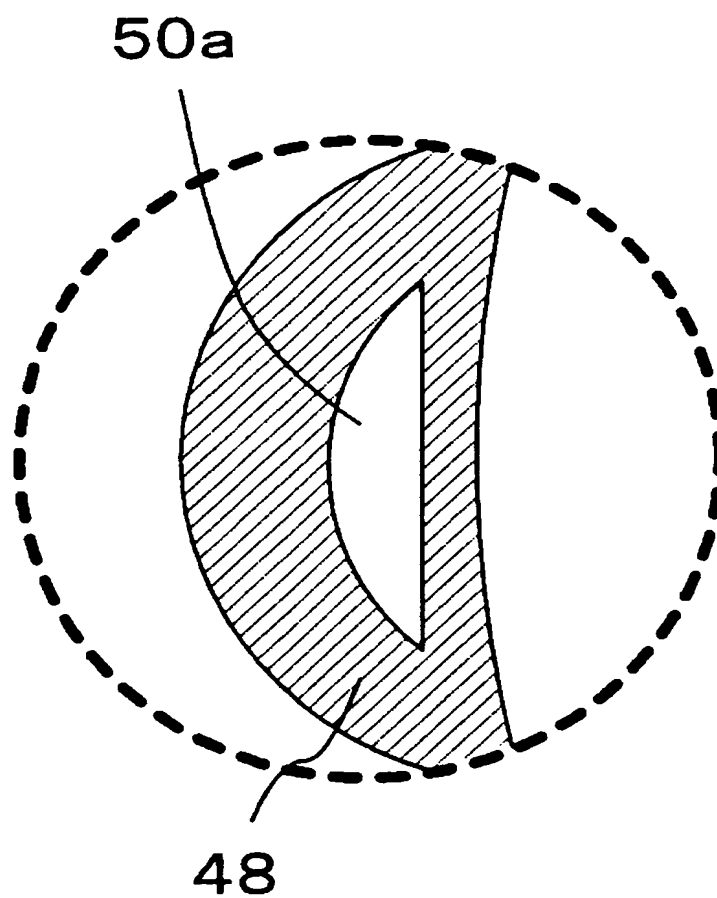
【図 11】



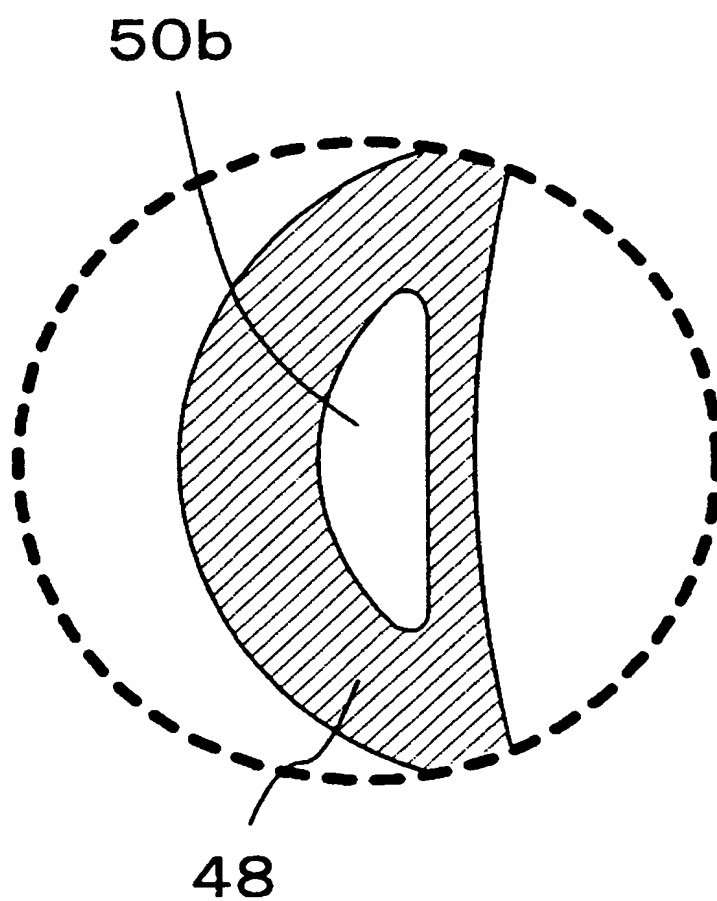
【図 12】



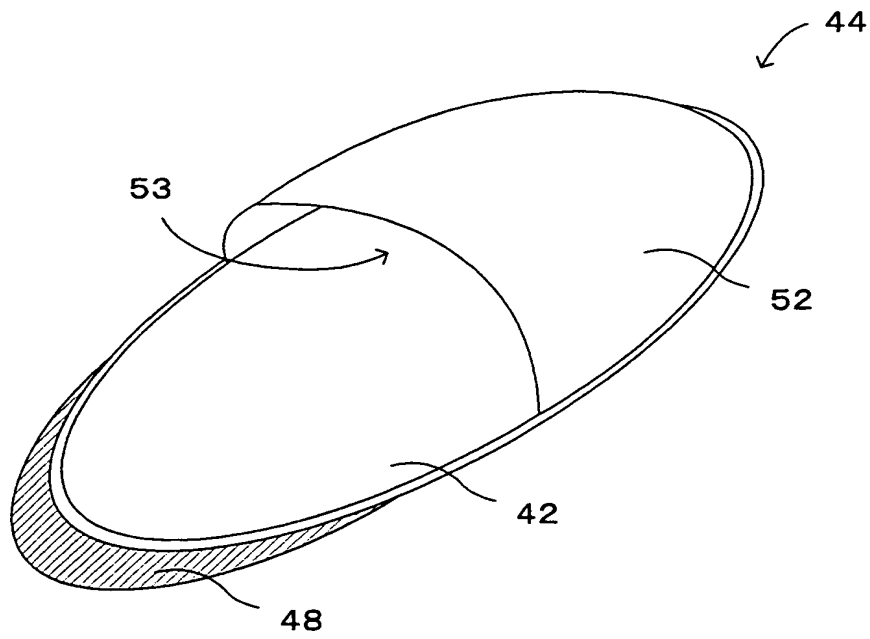
【図 13】



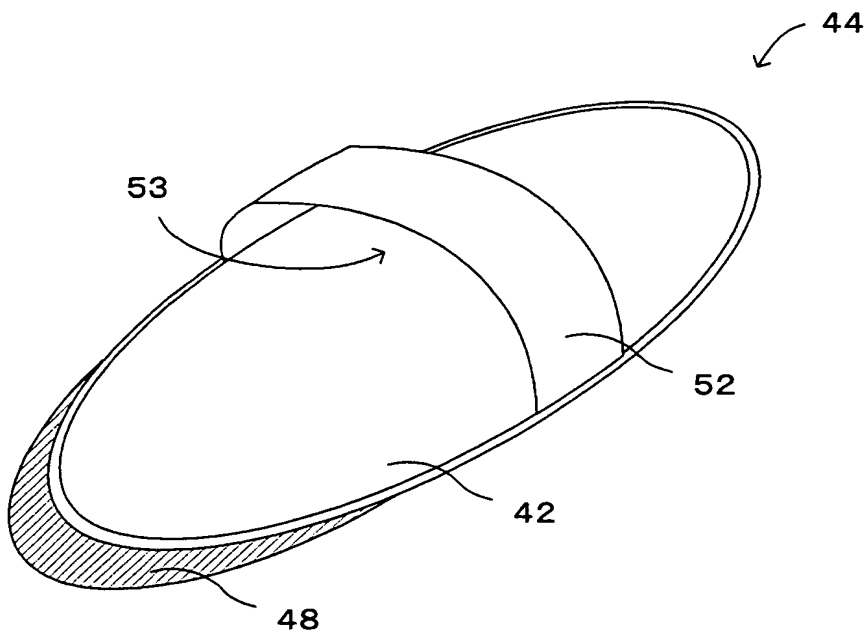
【図 14】



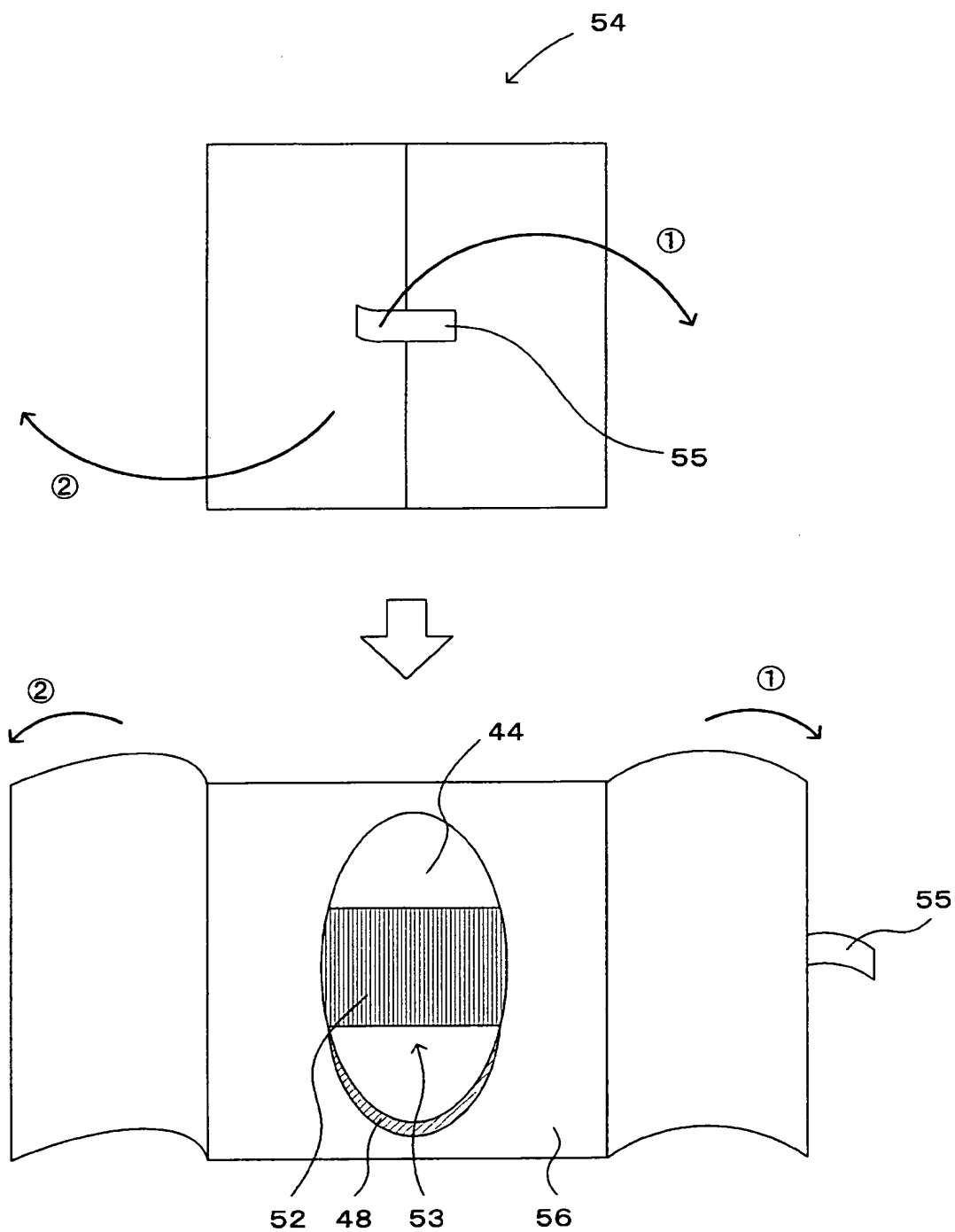
【図 15】



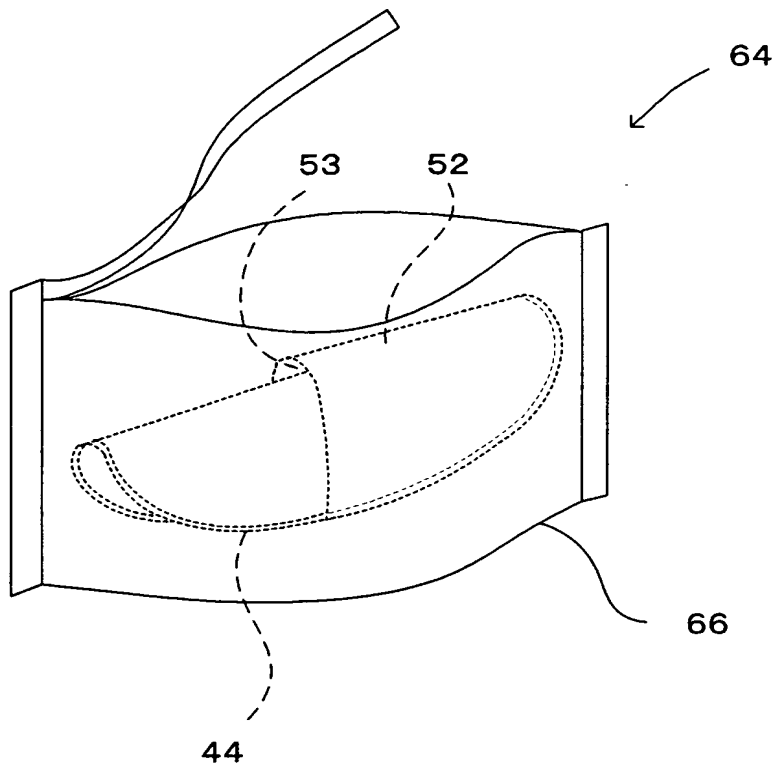
【図 16】



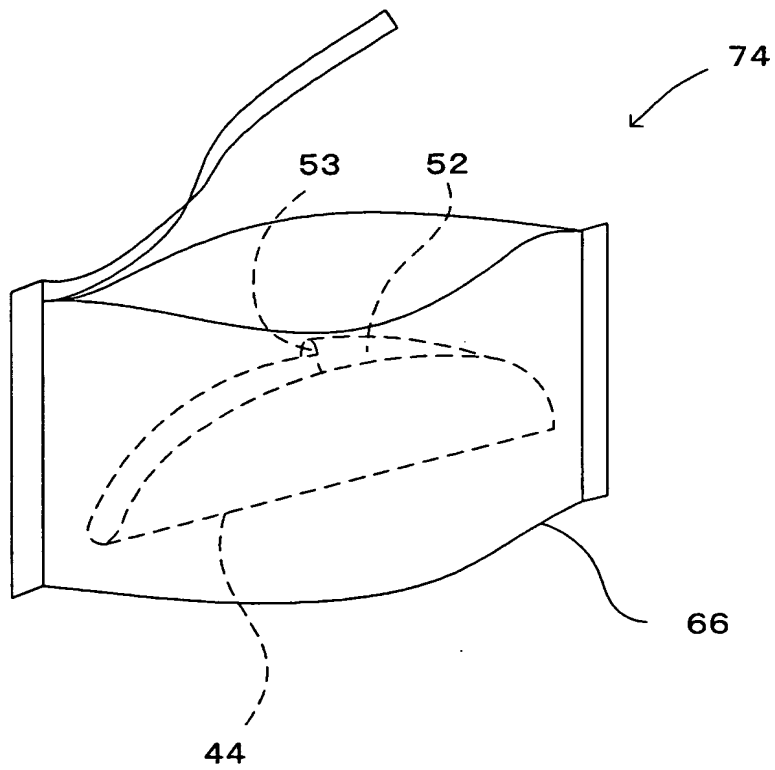
【図 17】



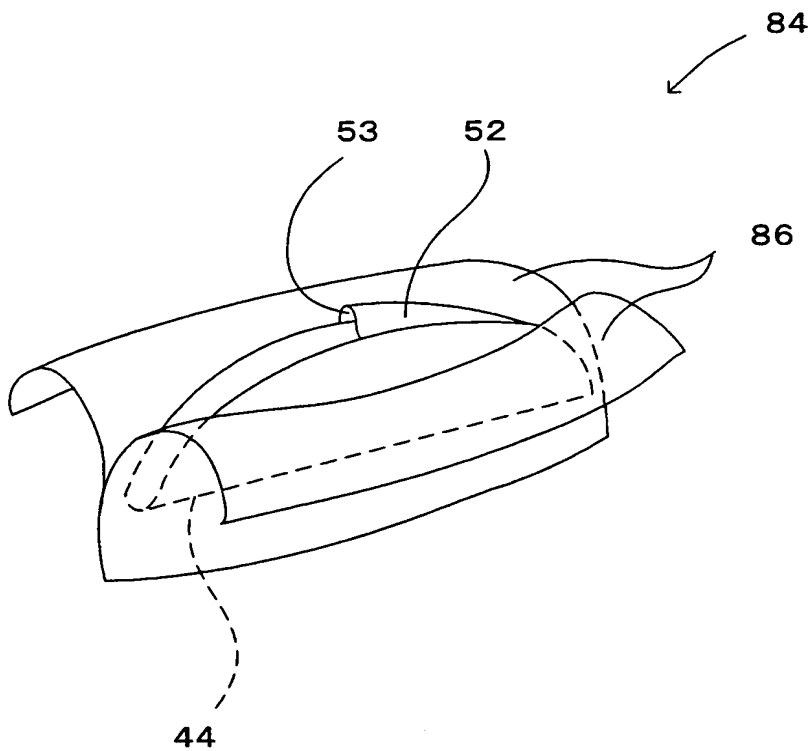
【図 18】



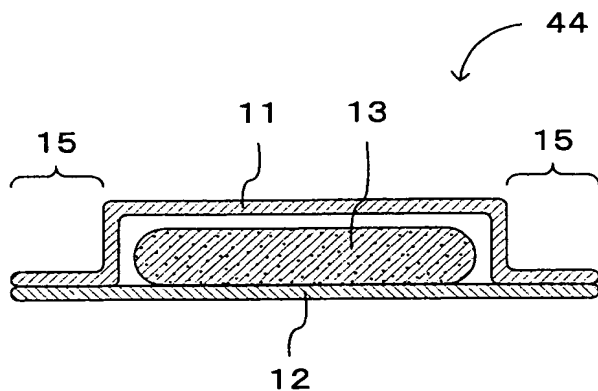
【図 19】



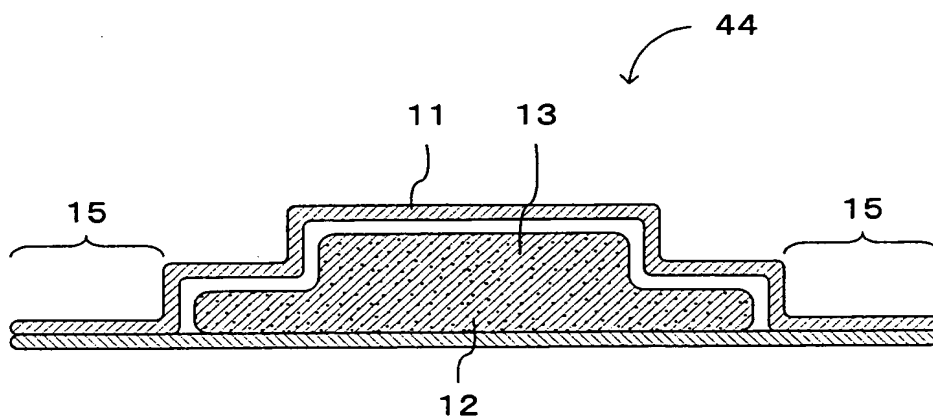
【図 20】



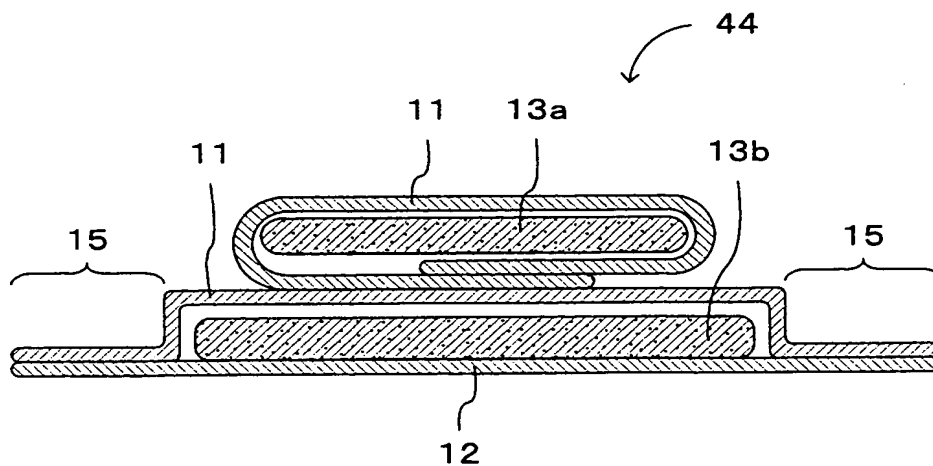
【図 2 1】



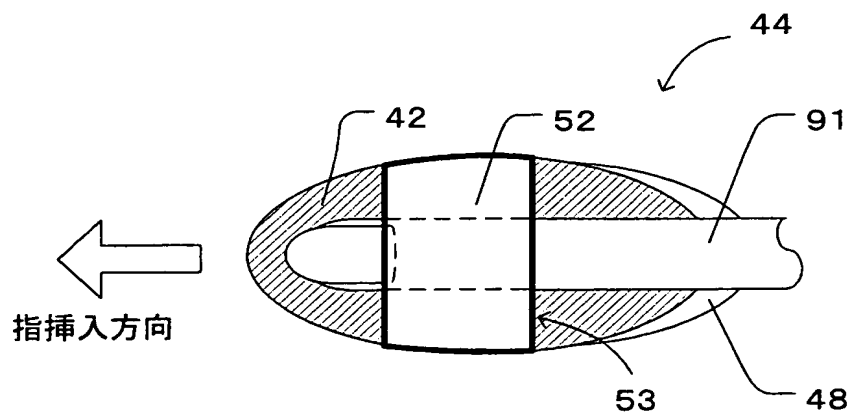
【図 2 2】



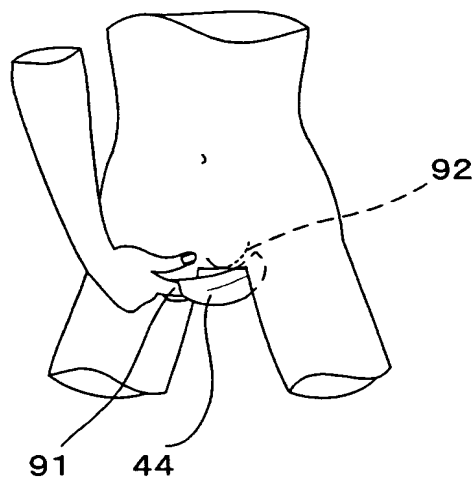
【図 2 3】



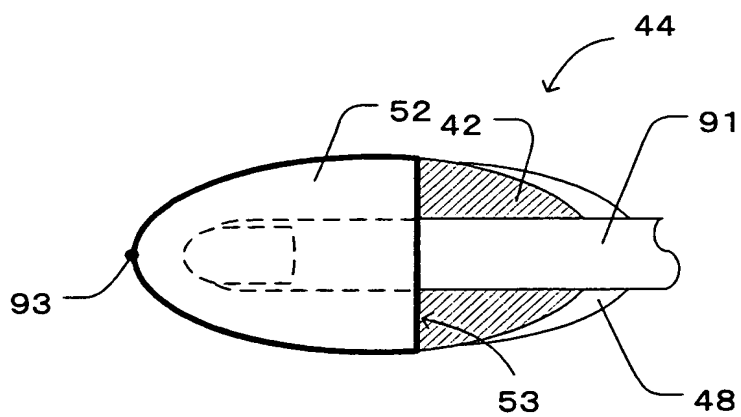
【図 2 4】



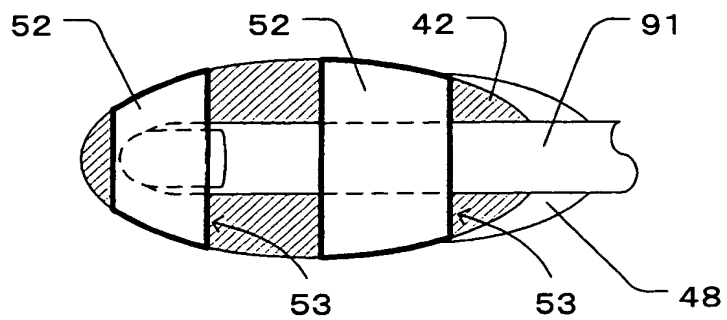
【図 2 5】



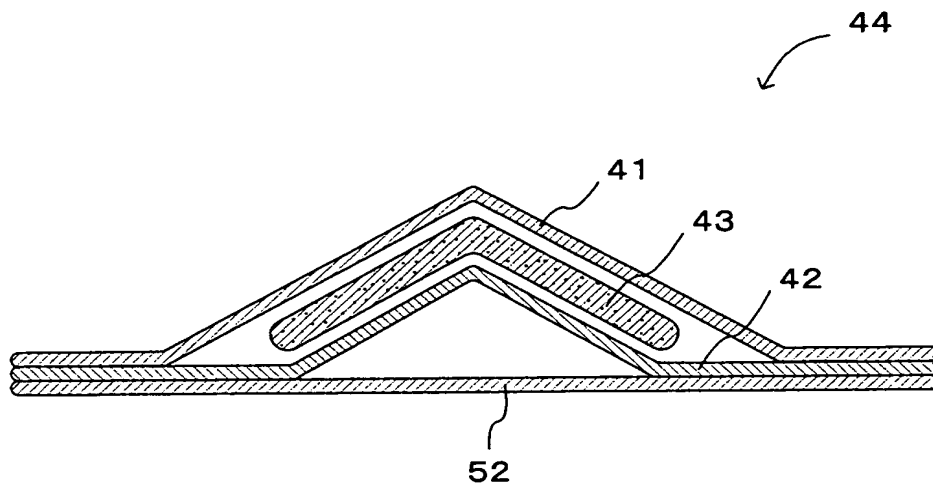
【図 2 6】



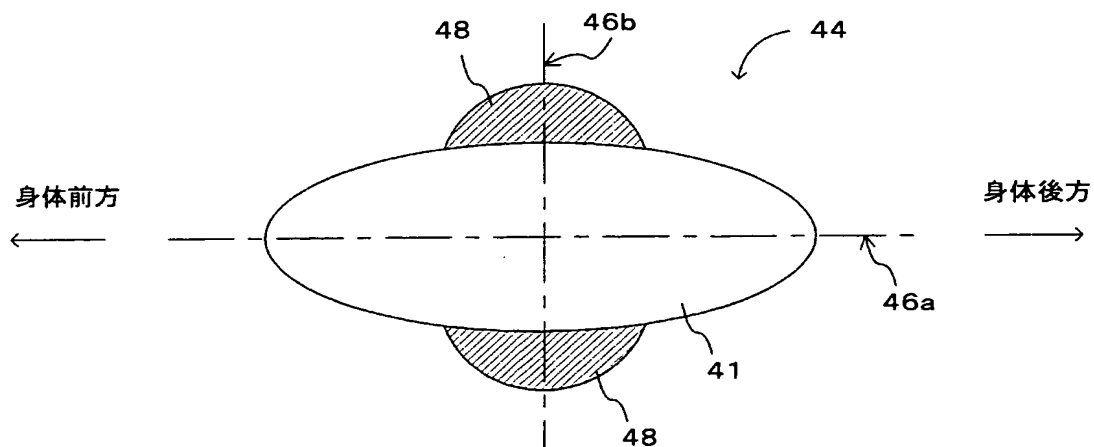
【図 27】



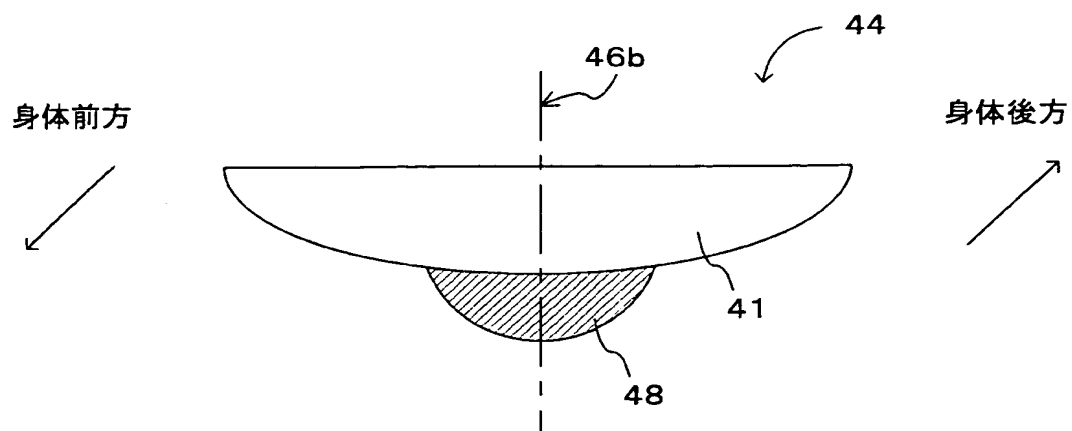
【図 28】



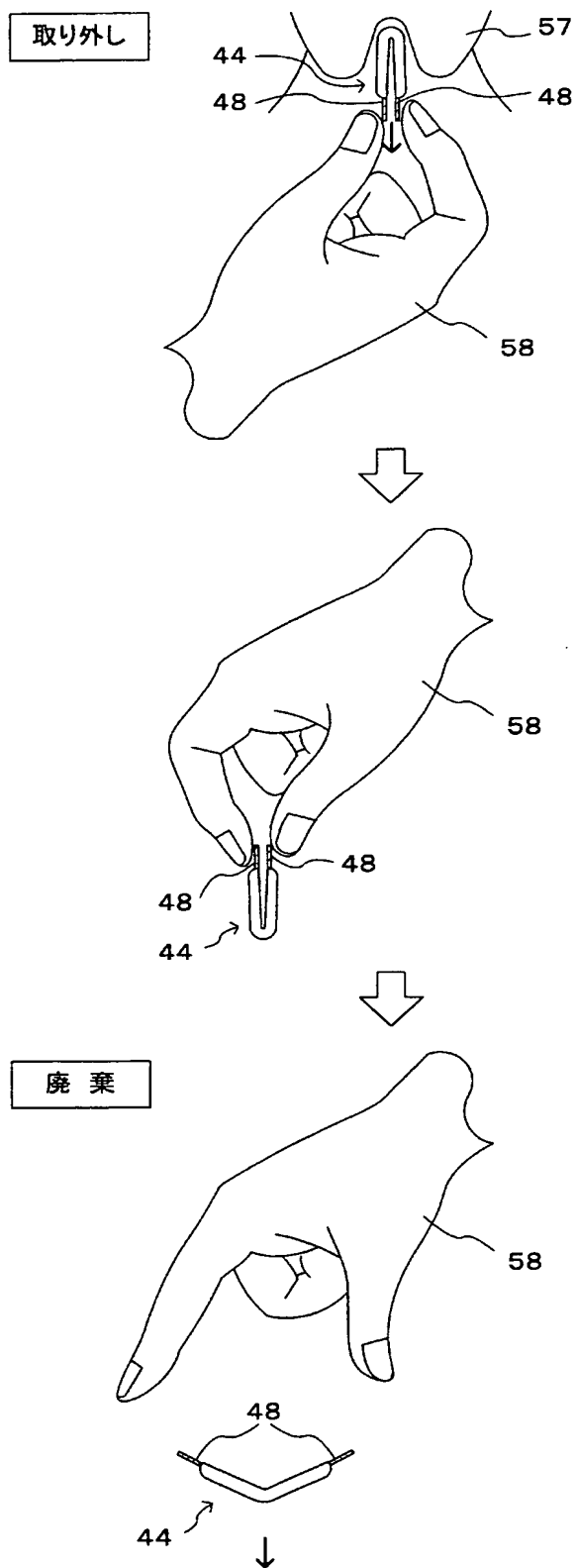
【図 29】



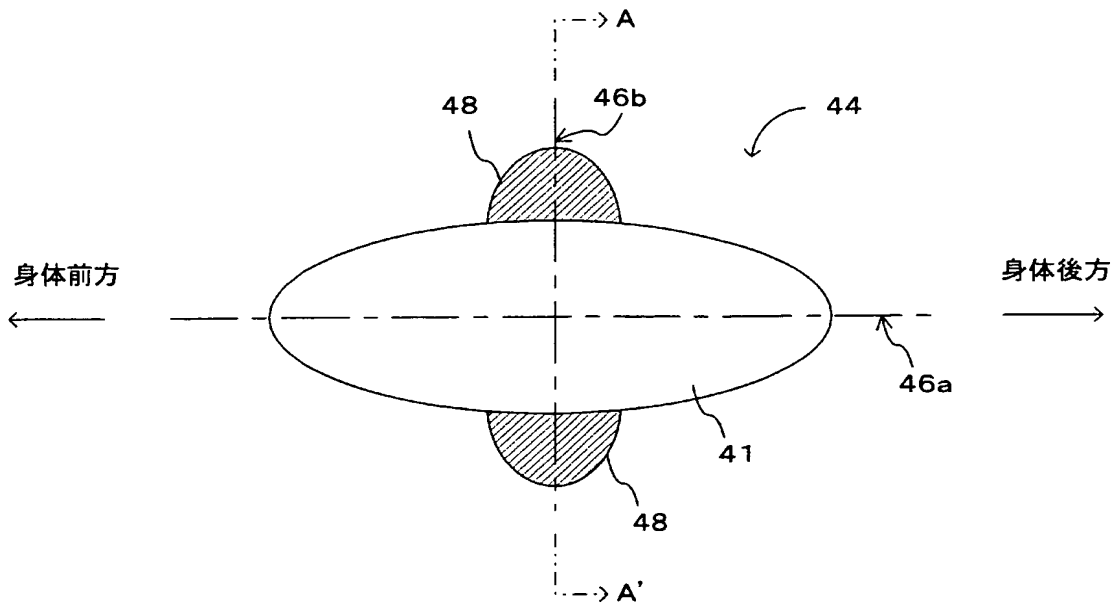
【図 30】



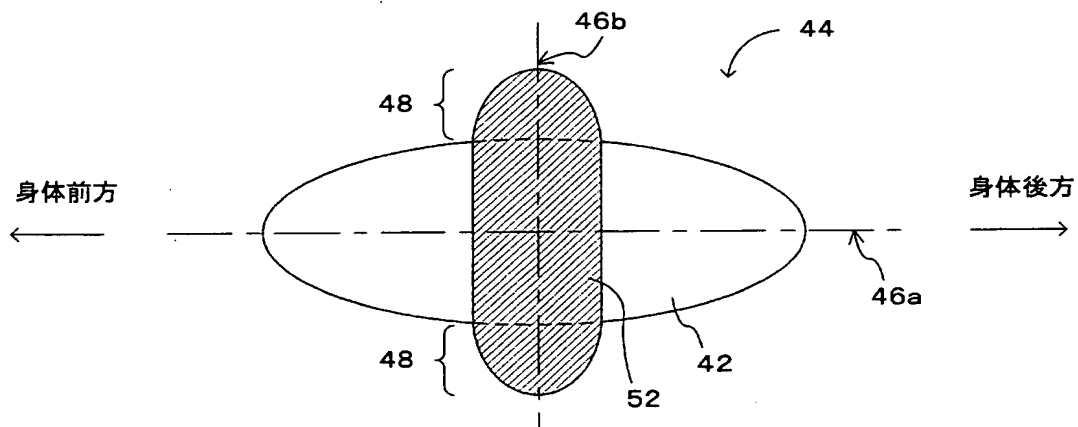
【図 3 1】



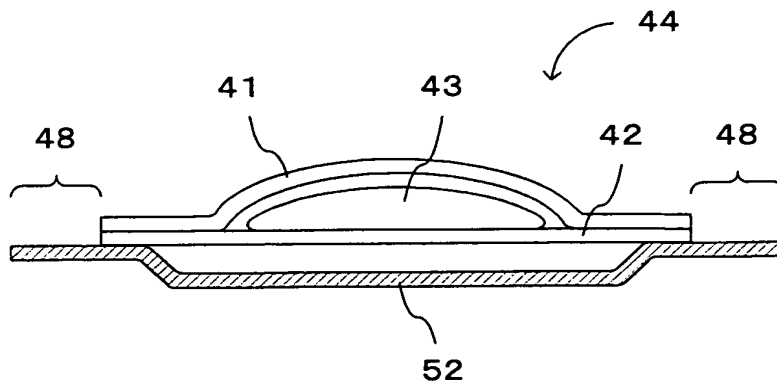
【図 3 2】



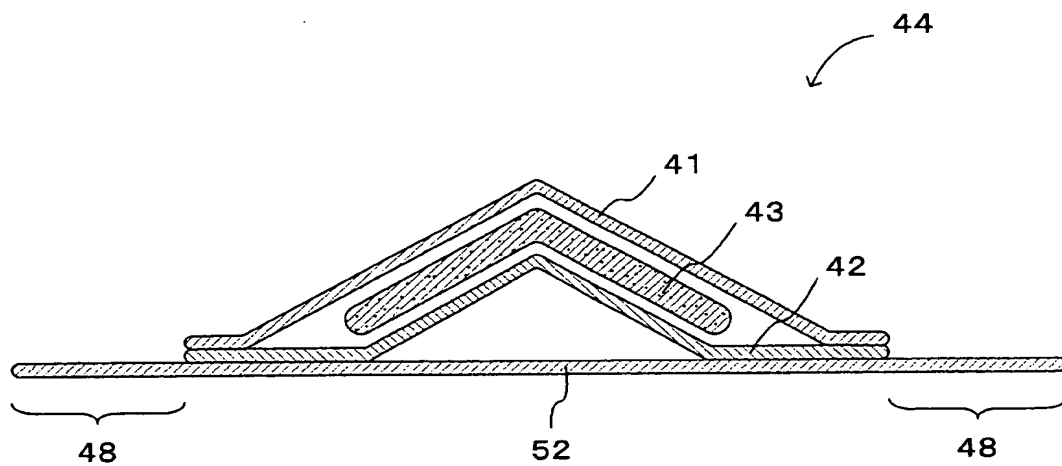
【図 3 3】



【図 3 4】



【図 35】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 着用者の肌を広く汚すことのない清潔性と、下着への汚れ付着が低減される安心感という、基本的な性能を担保するのは勿論のこと、陰唇間から迅速かつ簡便に、しかも衛生的に取り外すことが可能な陰唇間パッドを提供する。

【解決手段】 透水性の被覆シート 11 と不透水性のサポートシート 12 とが経血を吸収する吸収体 13 を内包させた形態で接合されて成る陰唇間パッド 14 である。陰唇間パッド 14 を陰唇に係着させた状態において、身体前方側に向かって突出するプルアップ体 18 を備えたものとする。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 1 - 3 1 9 9 1 5

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 1 1 5 1 0 8]

1. 変更年月日 1 9 9 0 年 8 月 2 4 日
[変更理由] 新規登録
住 所 愛媛県川之江市金生町下分 1 8 2 番地
氏 名 ユニ・チャーム株式会社
2. 変更年月日 2 0 0 4 年 4 月 1 日
[変更理由] 住所変更
住 所 愛媛県四国中央市金生町下分 1 8 2 番地
氏 名 ユニ・チャーム株式会社